
o n y

長岡高専五十年の歩み

昭和三十七年に誕生した長岡高専は、創立五十周年を迎えました。高志台には、昔も今も変わらない若者たちの声が響きわたる一方、長岡高専は、時代の流れとともに、さまざまな変化を積み重ねてきました。そして今、これまでの歩みを振り返るとともに、次の五十年に向けて、さらなる飛躍を誓い合う時がやってきました。

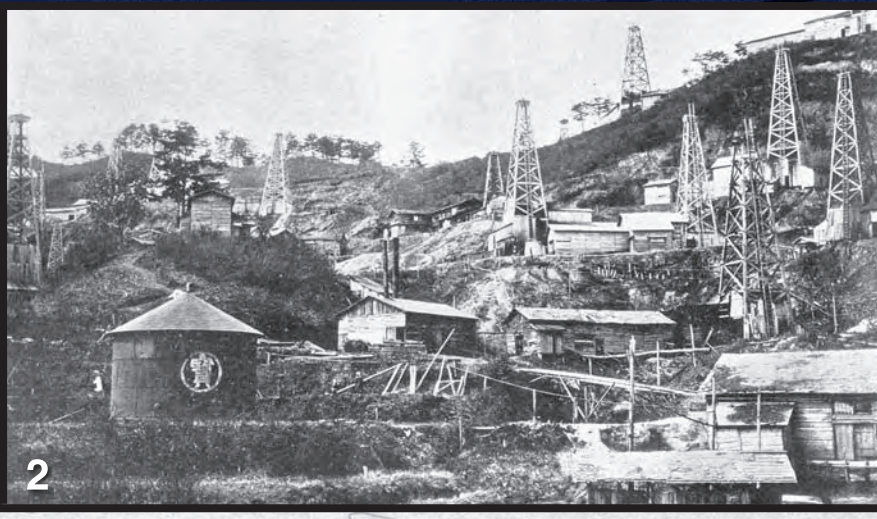




プロローグ1

長岡における近代工業の発展と高等教育機関





信濃川の水運に恵まれた長岡は、明治以前においては、商業の町として知られていました。工業の町としての顔は、主に明治以降に形成されたものです。

明治十年代、長岡の商業研究団体共愛社において、商業よりも工業を発展させるべきとする議論が行われていますが、長岡の工業が隆盛を見せるきっかけが、明治二十年代以降の東山油田の開発にあることは言うまでもありません。小坂松五郎が浦瀬の腐沢で石油の採掘に成功したのが明治二十一年十一月のこと。以来、明治期の長岡は石油ブームに沸き、その盛況ぶりは、「オイルシティー」と呼ばれるほどでした。東山油田の開発の中心となった宝田石油は、西山油田の日本石油と並ぶ二大石油会社に成長を遂げていきました。

石油業の発展は、掘削機の修理や製作を行う鉄工業を生みだしました。宝田石油の付属工場として長岡鉄工所組合（のちの長岡鉄工所）が設立されたのは、明治四十年三月のことでした。

大正期に入ると東山油田の採掘量は激減し、大正十年十月、宝田石油は日本石油に合併されました。第一次世界大戦の戦後不況と宝田石油廃止のダブルパンチで、このころ長岡の工業は沈滞ムードに包まれましたが、長岡工業協会の設立など長岡工業界の復活に向けた取り組みも始まりました。そして、昭和七年、満州事変の勃発―。長岡の工業は軍需景気により再び活況を呈し、昭和十年三月、木村清三郎市長が「工業立市」を宣言するに至りました。

長岡の地に工業系の高等教育機関を誘致する動きは、こうした明治以降における工業の発展の中で



4

1. 悠久山公園から長岡高専と東山丘陵を望む
2. 林立する油井と宝田石油の貯蔵タンク（写真／長岡市立中央図書館蔵）
3. 長岡高等工業学校の前景
   現在の新潟大学工学部の前身となる教育機関で、大正12年12月に設置されました。（『新潟大学工学部五十年史』より）
4. 昭和13年の長岡市地図（長岡市役所発行、部分／長岡市立中央図書館蔵）
5. 越後交通栃尾線・悠久山駅
   越後交通栃尾線は、東山油田の資材を運搬することなどを目的に開設された栃尾鉄道（のち栃尾電鉄）を継承した軽便鉄道路線。悠久山駅から長岡駅、上見附駅を経由して栃尾駅までを結んでいました。昭和48年に長岡―悠久山間が廃止されるまで、長岡高専は「悠久山駅から徒歩15分」と案内されていました。



5

始まりました。明治四十年二月、長岡商業会議所が農商務大臣・文部大臣にはじめて設置要望書を提出しましたが、これが実現したのは、大正十二年十二月のことでした。このとき長岡高等工業学校が長岡市四郎丸町（現・学校町）の地に設置されることが決まり、長岡における工業系の高等教育機関の歴史が幕を開けました。長岡高等工業学校は、昭和十九年に長岡工業専門学校と改称し、戦後の昭和二十四年には、新潟大学工学部として再出発しました。昭和五十五年、新潟大学工学部は、新潟市五十嵐地区に移転しますが、戦前・戦後の約六十年間、長岡の工業の発展とともに歩み続けました。

昭和二十六年、早くも現在の高専制度の源流となる構想が打ち出されていますが、長岡高専の前身となる長岡工業短期大学が設置されたのは、それから十年後の昭和三十六年のことでした。当初は県立工業短大の構想がありましたが、これが挫折すると、新潟大学の工業短期大学部設置という形の誘致運動が展開し、実現に至りました。最終的に、短大は新潟大学とは独立して設置されることになりますが、施設・設備、教授陣をはじめ、あらゆる面で新潟大学工学部の協力をうけながら運営がなされました。

そして、昭和三十七年四月、短大と併設という形で長岡高専が設置されます。日本経済が高度成長に沸きかえる時代に産声をあげた本校ですが、根底には、明治以来の長岡における近代工業の発展と高等教育の伝統があることを私たちは忘れてはなりません。長岡高専の背景に連なる東山丘陵を眺めるとき、このことを改めて思い起こしたいものです。

【参考文献　『長岡市政100年のあゆみ』（長岡市）】



7



6

プロローグ2

昭和36年4月1日
国立長岡工業短期大学の誕生

昭和二十六年十一月、「我が国の実情」に即した「実際社会の要求に応じ得る弾力性をもった教育制度」の確立が必要であるとする政令改正諮問委員会の答申が出されました。具体的には、専門教育に重点をおく、高等学校と大学の二年から三年を合わせた五年ないし六年制の専修大学の設立が構想されたのです。

これが、今日の高等専門学校制度の源流になった構想とされています。日本が朝鮮特需に沸き、サンフランシスコ講和条約の調印により(二十六年九月調印、二十七年四月発効)、国際社会に復帰しようという時期のことでした。

この答申を受け、日本経営者団体連盟(日経連)も、戦後の新しい教育制度における職業・産業教育の希薄性を指摘し、高等教育制度の中に、旧制専門学校にあたる教育機関を設立する必要性を主張しました。こうした時代の推移と産業界の要請をうけ、中央教育審議会(文部大臣の諮問機関)も、短期大学と高等学校をあわせた五年制ないし六年制の技術専門の学校を早急に設立するべきとする答申を発表しました。

政府が国会に「学校教育法等の一部を改正する法律案」を提出したのは、昭和三十三年三月のことでした。いわゆる「専科大学法案」です。これは、日経連の要望や中教審の答申をうけたもので、中堅技術者養成のために専門職業教育機関を設け、短期大学を発展的に解消し、専科大学として恒久化しようとするものでした。岸信介内閣のもとで上程されたこの法案は、警職法や日米安保改訂をめぐる与野党対立の中、結果的には廃案となりました。しかし、遠からず技術を専門とする高等教育機関が設立される見通しがあることについては、衆目の認めるところとなりました。

専科大学の構想をうけ、長岡市はいち早く、「新潟県立長岡工業短期大学」の設立を文部省に申請しました。具体的には、新潟県立長岡工業高等学校の西隣に短期大学を設置し、専科大学法案が成立した場合、長岡工業高等学校と短期大学を併せて専科大学に移行するというものでした。この申請は結局のところ実現しませんでしたが、長岡高専の設置につながる具体的な第一歩が踏み出された、という意味では忘れてはならない一コマです。

県立長岡工業短期大学の構想が実現しなかった理由として、当時、長岡市学校町にあった新潟大学工学部を度外視したことがありました。この反省をふまえ、今度は、新潟大学の工業短期大学部設置という形の誘致運動がはじめられました。昭和三十五年九月、新潟大学長から文部大臣に『新潟大学工業短期大学部設置認可申請書』が提出され、十月には、誘致のための設置期成同盟会も発足しました。申請書の段階では、新潟大学工学部の隣接地(長岡市学校町)が設立予定地とされていま







6．昭和36年5月30日　開学前日／ 7．昭和36年6月1日　第1回入学式　学長訓辞
8．昭和36年7月26日　長岡工業短期大学の敷地工事開始／ 9．昭和36年10月4日　学章の決定
10. 長岡高専設置直後の教職員の集合写真（昭和37年4月11日）

したが、より広く独立した敷地を確保することが望まれました。そこで、県立長岡高校の東北方から土合町にかけての土地や高畑町の長岡温泉北方の丘陵地が候補地として検討され、最終的には、栖吉地区の約二万三〇〇〇坪の土地に決定されました。

昭和三十六年一月、工業短期大学設置の費用が国の予算に組み込まれ、実質的に短大設置が決定しました。さらに二月十日には、新潟大学から分離・独立して、国立長岡工業短期大学として設立することが決定されました。昭和三十六年三月三十一日、「国立学校設置法の一部を改正する法律」が公布され、四月一日、同法の施行により、国立長岡工業短期大学が発足しました。学長に山崎貫三（前新潟大学工学部長、のち長岡高専初代校長）が就任し、新潟大学工学部の校舎の一部を借り受けて開校準備がはじまりました。

同年五月十三日、短大最初の入学試験が行われ、十七日、一六二名の合格者が発表されました（機械工学科八二名、電気工学科四〇名、工業化学科四〇名）。六月一日、第一回入学式が新潟大学工学部講堂で行われ、授業は六月五日から開始されました。すでに年度はじまりの四月から二ヶ月が経過していましたが、その分の遅れは、夏休み返上で回復が図られました。

新潟大学工学部の校舎を借りた学園生活ではありましたが、秋までに学友会も結成され、委員会やクラブ活動も始動しました。学園生活が軌道にのる中、学章選定委員会が結成され、学章の校内募集も行われました。一〇八件の応募作品の中から、選定されたのは、電気工学科の寺島正輝の作品でした。

また、校舎建設地の名称も校内で募集されました。一〇〇件近くの応募があり、投票の結果をふまえた学長および長岡市長らの選考により、十二月十日、「高志台」が学校および敷地全体の名称として正式に決定しました。「越の国」「古志郡」にも通じ、高い理想に向かって研鑽を積む精神を表現した名称として、現在も長岡高専の別称として用いられ続けています。

こうして誕生した短大でしたが、その翌年の昭和三十七年四月には、長岡高専が短大と併設という形で設置され、発展的に解消されることになりました。短大と高専は、短大学長・高専校長の山崎貫三をはじめとする教職員すべてが併任とされました。昭和三十八年に高志台の新校舎に移転してからは、同一敷地内で同一の施設・設備を使用して、教育活動が行われました。そして、昭和四十一年三月十八日、第四回にして最後となる短大の卒業生が高志台を後にしました。

短大が正式に廃止されたのは、同年四月一日のことでした。中堅技術者を養成する社会的使命は、こうして長岡高専にバトンタッチされることになったのです。

長岡工専の新設内定

文部省、五年制高専の設置発表

公私立あわせて23校

文部省は二十九日、三十七年度から新設される五年制の高等専門学校は国公私立を合わせて二十三校になると発表した。新設される高専校の内訳は国立十七校（新設十五校、宇部、長岡工業短大併設二校）公立二校、私立四校で公私立校は十月末までに設置申請を受け許可する方針。国立校については大蔵省との予算折衝の結果、最終決定されるが、三十七年度予算として施設費二十八億円、人件費など運営費十億円、計三十八億円の概算要求を大蔵省に提出した。

来年度は仮校舎で

庭山長岡市助役語る

工業専門学校の来年度設置の知らせを受けた長岡市の庭山助役は「工業短大誘致の時から実現を確信していたが、非常にうれしい」と前置きしてつぎのように語った。

来年度の開校にはさしあたって東神田町の新大分校付属中学校の校舎を予定しても問題ない。市としては工業大の誘致運動をおこした時から工業専門高校の設置を前提に現在悠久山裏の西片貝に一万六千平方㍍の用地を買収すでに敷地にとりかかっている。市がこれまでに予算措置化した額は五千八百万円に達し、三十八年三月中に千二百人を収容できる三階建の近代校舎もできるはずで、付属小中校舎を使用するのも来年度一年でいいと思う。とにかく念願の中堅技術者を養成する工業課程専門校ができるのだから、りっぱなものに育てゆきたい。

四月中旬には開校

山崎短大学長語る

一方山崎工業短大学長は次のように語った。

すでに来年度から募集できる体制で準備をしている。四月十日から二十日ごろには開校できるようにしなければならないと思う。現在の問題は、付属小を寄宿校舎にあけてもらうことと教授陣を整えることだ。先生の方はもう履歴書もたくさんきている。入試科目は県立高校とほぼ同じになるだろう。試験期日は国立大学の一期校と二期校の試験の間くらいがいいと思っている。とにかく工専の発足は地元に技術者を供給する点と、これまで分断されがちだった技術者教育を充実させる点で意義があると思う。

昭和36年8月30日「新潟日報」

プロローグ3

高等専門学校制度の創設と歩み

長岡工業短期大学が設置された頃、専科大学法案にかわる五年制の高等専門学校制度の創設に向けた準備も着々と進められていました。

政府が国会に「学校教育法の一部を改正する法律案」および「学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の成立に関する法律案」を提出したのは、昭和三十六年四月五日のことでした。いわゆる「高専法案」です。池田勇人首相によって「所得倍増」が叫ばれた、高度経済成長真只中のことでした。

野党から、戦後の「六・三・三・四」制を崩すきっかけになるなどの反対がありましたが、法案は原案どおり可決され、六月十七日に公布されました。

改正学校教育法では、あらたに設置される高等専門学校について、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と明記されました。大学とも高等学校とも違う、実践的技術者の養成を目的とする五年制の高等教育機関が、ここに創設されたのです。

学校教育法の改正に対応して、文部省は同年八月三十日、「高等専門学校設置基準」（文部省令二三号）を制定し、その具体像を示しました。また、文部省はこれと並行して、昭和三十七年度に全国で国立高専を一〇校程度設置することを目指し、準備を開始しました。

長岡では、高専制度が創設された場合、長岡工業短期大学を高専に改組する了解が当初からあったため静穏な日々が続きましたが、これ以降、全国で激しい誘致競争が展開されました。

高専制度元年にあたる昭和三十七年度に開校した高専は、国立が一二校、公立が二校、私立が五校にのぼりました（平成二十三年四月現在の数は、国立五一校、公立三校、私立三校）。高専制度の発足は、社会的にも反響が大きく、新聞などでも大きく報道されました。

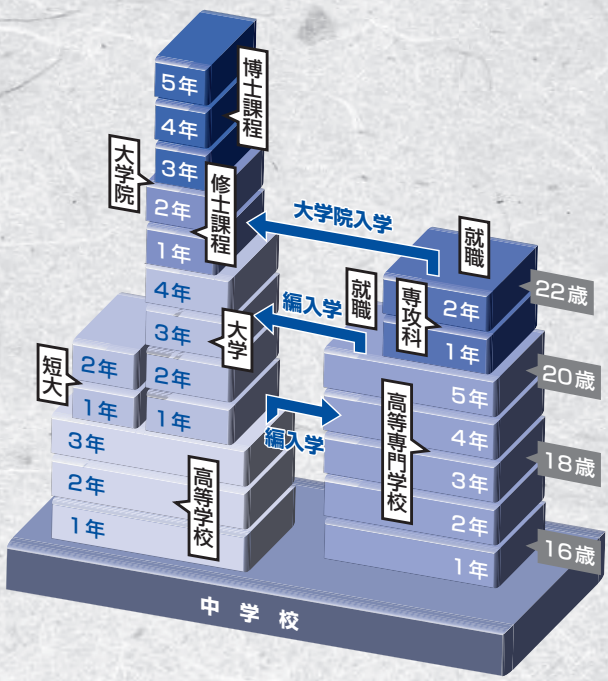
長岡以外の国立高専は、一月二十四日・二十五日に統一問題で入試を実施し、長岡はこれとは別に、三月十日・十一日に実施しました。第一回入試は、社会の関心の高さを反映して、志願倍率も軒並み高倍率となり、最高の明石高専機械工学科では、三四・七倍を記録しました。

以後、各地に高専が設立され、昭和四十年度までに四三校の国立高専が設立されました。昭和四十二年には、学校教育法の改正により、商船に関する学科が制度化され、商船高専五校が誕生しました。平成三年には、学校教育法がさらに改正され、卒業者に「準学士」を付与すること、工業・商船以外の学科の設置を可能とすること、専攻科制度を創設する

国立高等専門学校の歩み

昭和36年	我が国経済の高度成長を背景に、産業界からの強い要望に応えるため、実践的技術者の養成を目指し、中学校卒業者を入学資格とする5年制の高等教育機関として学校教育法の改正により、工業に関する高等専門学校を制度化
昭和37年	最初の国立工業高等専門学校12校（函館、旭川、福島、群馬、長岡、沼津、鈴鹿、明石、宇部、高松、新居浜、佐世保）を設置
昭和38年	国立工業高等専門学校12校（八戸、宮城、鶴岡、長野、岐阜、豊田、津山、阿南、高知、有明、大分、鹿児島）を設置
昭和39年	国立工業高等専門学校12校（苫小牧、一関、秋田、茨城、富山、奈良、和歌山、米子、松江、呉、久留米、都城）を設置
昭和40年	国立工業高等専門学校7校（釧路、小山、東京、石川、福井、舞鶴、北九州）を設置
昭和42年	学校教育法の改正により、商船に関する学科の設置を制度化し、国立商船高等専門学校5校（富山商船、鳥羽商船、広島商船、大島商船、弓削商船）を設置
	国立工業高等専門学校1校（木更津）を設置
昭和46年	国立電波工業高等専門学校3校（仙台電波、詫間電波、熊本電波）を設置
昭和49年	国立工業高等専門学校2校（徳山、八代）を設置
平成3年	学校教育法改正により、卒業者への「準学士」称号の付与、工業・商船以外の学科の設置を可能とする分野の拡大、専攻科制度の創設
平成14年	「今後の国立高等専門学校の在り方に関する検討会」が発足
	国立工業高等専門学校1校（沖縄）を設置（学生受け入れ平成16年4月）
平成15年	「今後の国立高等専門学校の在り方に関する検討会」最終報告　独立行政法人国立高等専門学校機構法成立
平成16年	独立行政法人国立高等専門学校機構発足
平成17年	高等専門学校設置基準の改正により、従来からの30単位時間履修単位に加え、45時間学修単位が制度化
平成21年	高度化再編により新高専（仙台、富山、香川、熊本）が発足

（独）国立高等専門学校機構のホームページより



学校体系上の高専の位置（現在）

ことが盛り込まれました。平成十四年には沖縄高専が設置され、この時点で国立高専は五五校を数えるにいたりました。

平成十六年には、国の行政改革の一環として、国立高専を設置・運営する独立行政法人国立高等専門学校機構が誕生しました。これにより、全国の国立高専は、東京に本部を置く機構のもとに束ねられ、学生総数五万人余、教職員数六〇〇〇人余からなる大規模な高等教育機関として再出発することになりました。

平成二十一年には、異なる特徴・強みを有する複数高専の教育研究資源を結集し、特色を持った新しいモデルの高専の創設めざす高度化再編が行われ、仙台・富山・香川・熊本の各高専が発足しました。

高専制度発足から半世紀―。

産業界の強い要請に応えて設立された高専は、「創造性のある実践的技術者の育成」を使命として、多くの人材を産業界に送りだしてきました。今、日本を取り巻く情勢は、極めて困難なものとなっていますが、科学技術創造立国と人材立国を掲げる日本において、高専の存在と役割は益々大きくなっています。こうした中、次の半世紀に向けた懸命の努力が、全国の高専で続けられています。

長岡高専誕生―予想を超える入試倍率。仮校舎の日々、待たれる新校舎の完成。



昭和37年4月20日
第1回入学式（新潟大学工学部講堂）



あの日 あの時

［昭和37年４月１日］

最初の国立工業高等専門学校12校の１つとして、長岡高専が誕生しました。

昭和三十七年三月二十九日、国立学校設置法の一部を改正する法律が公布され、同年四月一日施行されました。ここに長岡工業高等専門学校が正式に発足し、初代校長に山崎貫三が就任しました。

これに先立つ三月十日・十一日の両日には、最初の入学試験が行われました（長岡以外の国立高専一一校は、二月二十四日・二十五日に統一問題で実施）。新潟大学工学部（長岡市学校町）を検査場とし、十日に数学・国語・英語、十一日に理科・社会の試験が実施されました。

募集人員は、機械工学科八〇名、電気工学科四〇名、工業化学科四〇名の合計一四〇名。これに対する志願者は、機械工学科が八九八名、電気工学科が五四三名、工業化学科が五二四名で、合計一九六五名に上りました。実に一二倍を超える高倍率で、「狭き門」となりました。入試の様子は、新潟日報紙上でも大きく取り上げられ、入試問題のほか、合格者一六二名の氏名・出身校も公表されました。

開校式および第一回の入学式は、昭和三十七年四月二十日、新潟大学工学部の講堂を会場に挙行されました。

当時はまだ専用の校舎がない状況だったため、水道町に新築移転中の長岡市立東中学校（今朝白町、現在の長岡市立阪之上小学校の場所）の校舎の一部が仮校舎にあてられました。仮校舎は九月一日から、新潟大学教育学部附属長岡小学校の旧校舎（東神田町）に移転し、不自由な中での勉学は、翌年四月に高志台の新校舎に移転するまで続きました。

仮校舎で迎えた最初の冬は豪雪に見舞われました（三八豪雪）。学生の手を借りて雪下ろしが行われましたが、その後も雪は降り続き、一月二十四日から二十六日までの間、臨時休校の措置がとられました。

昭和36年（1961）

4月1日	長岡工業短期大学の設置（機械工学科2学級、電気工学科1学級、工業化学科1学級）
	初代学長に山崎貫三（新潟大学工学部長）が就任
6月1日	短大第1回入学式（新潟大学工学部講堂）
6月5日	短大授業開始（新潟大学工学部を仮校舎として）
12月10日	長岡市西片貝町の校舎建設予定地の名称を「高志台」と定める

【日本の出来事】
6月　農業基本法成立　改正学校教育法公布（高等専門学校設置を含む）
10月　文部省が中学2・3年生を対象に学力一斉テストを実施

【世界の出来事】
1月　ケネディが米大統領就任
4月　ソ連が世界初の有人宇宙飛行に成功
5月　韓国、朴正熙軍事政権成立
8月　ベルリンの壁建設

昭和37年（1962）

1月10日	国立工業高等専門学校12校の設置が正式決定
4月1日	長岡工業高等専門学校の設置
	初代校長に山崎貫三が就任、校舎は短大と共用、教職員も併任
4月20日	高専の開校式、第1回入学式
4月21日	始業式
4月23日	長岡市立東中学校（今朝白町）を仮校舎として授業を開始
9月1日	仮校舎が新潟大学教育学部附属長岡小学校の旧校舎（東神田町）に移転
11月8日	「高志台」の新校舎竣工
11月11日	第1回短大・高専合同運動会が悠久山グランドで開催される
12月13日	機械工場竣工

【日本の出来事】
2月　国立がんセンター開設
3月　義務教育の教科書が無償配布となる
5月　サリドマイド児問題化
9月　東海村の国産第1号原子炉に火がともる
10月　全国総合開発計画決定
11月　日中LT貿易開始

【世界の出来事】
7月　アルジェリア独立
10月　中印国境武力紛争　キューバ危機

昭和38年（1963）

1月24日	豪雪のため臨時休校（～26日）、仮校舎の雪下ろし
3月18日	短大第1回卒業式（卒業生138名）
3月25日	寄宿舎（高志寮）の管理棟・1号館竣工

【日本の出来事】
1月　北陸地方に豪雪（三八豪雪）

世相　坂本九「上を向いて歩こう」（1961）、NHK朝の連続テレビ小説第1作「娘と私」（1961）、リポビタンD発売（1962）、王貞治がはじめて一本足打法で登場（1962）、「鉄腕アトム」放送開始（1963）



昭和37年5月30日
高専生が高志台の工事現場を見学

仮校舎　新潟大学教育学部附属長岡小学校旧校舎（長岡市東神田町）



あの日 あの時



［昭和38年6月15日］

長岡高専の設立から1年が過ぎ、「高志台」の誕生を祝う開学・開校記念式、竣工式が挙行されました。

「高志台」で教育活動がスタート。開学・開校記念式、竣工式の挙行。



新校舎建設地の整地工事がはじまったのは、昭和三十六年八月四日のことでした。三つの山のある丘を削り、上段・中段・下段の三段の敷地が造成されました。

この頃、短大教職員と学生により、新校舎予定地の愛称の募集が行われました。応募作品の中から「高志台」が選定されたのは、この年十二月十日のことでした。応募作品には、「悠久ヶ丘」、「蒼柴ヶ丘」、「栖吉台」などのほか、山崎学長にちなむ「山崎台」などもありました。

校舎建設の第一期工事は、同年十二月十二日にはじまりました。地震、集中豪雨、洪水などの災害があって工事は難航しましたが、昭和三十七年十一月八日、第一期工事が竣工し、新潟大学工学部に間借りしていた短大二年生（短大一期生）が、竣工に先立つ十一月六日、新校舎に移転しました。

高専生（一期生、一年生）は、学校創設以来、長岡市立東中学校（今朝白町）、ついで旧新潟大学教育学部附属長岡小学校の旧校舎（東神田町）を仮校舎として過ごしてきましたが、短大生につづいて新校舎に移りました。仮校舎が正式に閉鎖され、学生・教職員の高志台への移転が完了したのは、昭和三十八年四月二日のことでした。

高志台で最初となる昭和三十八年度の入学式は、三八豪雪の影響で遅れ、短大（三期生）が四月十八日、高専（二期生）が四月二十日に挙行されました。高志台における教育活動が、ここに本格的にスタートしました。

六月十五日には、希望と喜びにあふれた雰囲気を背景に、開学・開校記念式並びに竣工式が挙行されました。この日、文部省の小林大学学術局長以下多数の来賓、山崎校長以下教職員、学生代表など約二百名が見守るなか、高志台は未来に向かって大きな一歩を踏み出しました。

1963-1965

◉昭和38～40年度

昭和38年（1963）

4月2日	新校舎（2号館・4号館）竣工により、仮校舎閉鎖
6月15日	開学・開校記念式ならびに竣工式を挙行

【日本の出来事】
6月　黒四ダムが完成
7月　新産業都市・工業整備地域を指定
11月　日米間テレビ宇宙中継実験成功
【世界の出来事】
5月　アフリカ統一機構成立
8月　米英ソ、部分的核実験停止条約調印
9月　マレーシア連邦発足
11月　ケネディ米大統領暗殺

昭和39年（1964）

1月8日	科別バッジが定まり、着用開始
3月27日	寄宿舎の2号館・3号館が竣工
6月17日	山崎校長と穂苅事務長が新潟地震見舞いのため新潟大学を訪問
11月2日	第1回短大・高専合同文化祭が開催される（～3日）

【日本の出来事】
4月　IMF8条国に移行
　日本人の海外旅行自由化　OECD加盟
6月　新潟国体開催　新潟地震
10月　東海道新幹線開業　東京オリンピック開催
【世界の出来事】
5月　パレスチナ解放機構（PLO）結成
7月　米、公民権法成立
10月　ソ連、フルシチョフ書記長失脚
　中国、初の原爆実験成功

昭和40年（1965）

2月1日	語学演習装置（LL）が完成
2月6日	第1回スキー大会が悠久山スキー場で開催される
3月31日	体育館及び武道館が竣工
5月24日	体育館落成記念球技大会はじまる（～6月14日）
11月6日	後援会が結成される
11月11日	学生食堂・プールが竣工
11月	創立5周年記念植樹（第1次）

【日本の出来事】
4月　ベ平連、初めてのデモ行進
6月　日韓基本条約
7月　名神高速道路開通
8月　佐藤栄作首相が沖縄訪問（首相として戦後初）
10月　朝永振一郎がノーベル物理学賞を受賞
12月　国連安保理非常任理事国に当選
【世界の出来事】
1月　インドネシア、国連脱退通告（翌年9月復帰）
2月　米、北ベトナム爆撃開始
12月　東西教会対立解消の声明

昭和41年（1966）

1月12日	学生食堂開設
1月24日	第1回英語弁論大会が開かれる
2月13日	宮柊二氏より校歌歌詞が届く
3月12日	正門の鋳物門標が完成
3月18日	短大第4回（最後）卒業式（総計511名）

【日本の出来事】
1月　戦後初の赤字国債発行
【世界の出来事】
1月　インディラ・ガンディーがインド首相就任
2月　ガーナでエンクルマ失脚

世相　NHK初の大河ドラマ「花の生涯」（1963）、銀座に「みゆき族」出現（1964）、シャープが卓上電子計算機を発売（1964）、エレキブーム（1965）



科別バッジ　左から機械工学科（M）、電気工学科（E）、工業化学科（C）



長岡高専の当時の英語名Nagaoka Technical Collegeの頭文字NTCの刻まれたバッジ

●長岡工業高等専門学校

五十年の歩み

創立五周年を迎えて―第一回高志祭の開催と校歌発表。そして、第一回卒業式の挙行。



1　機械工学科1組
2　機械工学科2組
3　電気工学科
4　工業化学科

あの日 あの時

［昭和42年3月18日］

長岡高専の開校から5年。はじめての卒業生135名が高志台から巣立っていきました。

昭和四十一年四月一日をもって、長岡工業短期大学が五年間の歴史を閉じました。

一方、長岡高専にとってこの年は、創立五年目という節目の年となりました。この間、第二期工事による校舎の増設、施設・設備の充実が順調に進み、昭和四十年三月には、体育館と武道館が、十一月には、学生食堂とプールが竣工しました。昭和四十一年三月には、正門の鋳物門標が出来上がり、十二月には鋳造・鍛造工場が竣工―。高志台の教育環境は、創立以来五年間で、格段の進化を遂げました。

こうした活力あふれる雰囲気の中、「産業界及び一般人に対する高専のアピール」と「学校内における学生間及び学生と教官の親睦を図る」ことを目的に、第一回高志祭が昭和四十一年六月四日から六日にかけて行われました(三日に前夜祭)。統一テーマには、「無限の発展そして未知の栄光への闘い」が掲げられました。

高志祭の初日には、創立五周年記念式典が行われ、その場で校歌(宮柊二作詞、小松清作曲)の発表演奏も行われました。

そして、昭和四十二年三月十八日、記念すべき第一回卒業式が挙行されました。最初の卒業生を送り出すにあたって、山崎校長は、「第一回卒業生の名にふさわしく、社会に出てからも高専の名に恥じないよう活躍してほしい」と式辞を述べました。これに対して、卒業生を代表して電気工学科の田上雅弘は、「第一期生としての自覚を持ち、常に自主独立の精神で新しい社会に向かって行きたい」と述べました。

最初の卒業生は一三五名。仮校舎の時代から本校の基礎作りに取り組んできた第一期生がこの日、高志台から実社会に巣立っていきました。

昭和41年（1966）

4月1日	長岡工業短期大学の廃止
5月17日	小松清氏より校歌の曲が届く
6月4日	創立5周年記念高志祭を開催（～6日、テーマ「無限の発展そして未知の栄光への闘い」）
6月4日	校歌発表
7月6日	アメリカからの留学生が来校
12月26日	鋳造・鍛造工場が竣工

【日本の出来事】
7月　原爆ドーム永久保存決定
12月　建国記念の日を2月11日とする
【世界の出来事】
5月　中国、文化大革命はじまる
7月　フランス、NATO軍事機構から離脱

昭和42年（1967）

2月20日	第1回卒業研究発表会（～21日）
3月18日	高専第1回卒業式（135名）
5月31日	全校バス旅行を実施

【日本の出来事】
4月　革新系の美濃部亮吉が東京都知事に当選
5月　朝日訴訟に最高裁判決
8月　公害対策基本法公布
【世界の出来事】
3月　インドネシア、スカルノ大統領失脚
6月　第3次中東戦争おこる
7月　ヨーロッパ共同体（EC）発足
8月　東南アジア諸国連合（ASEAN）結成

昭和43年（1968）

1月14日	土木工学科増設決定が正式発表される

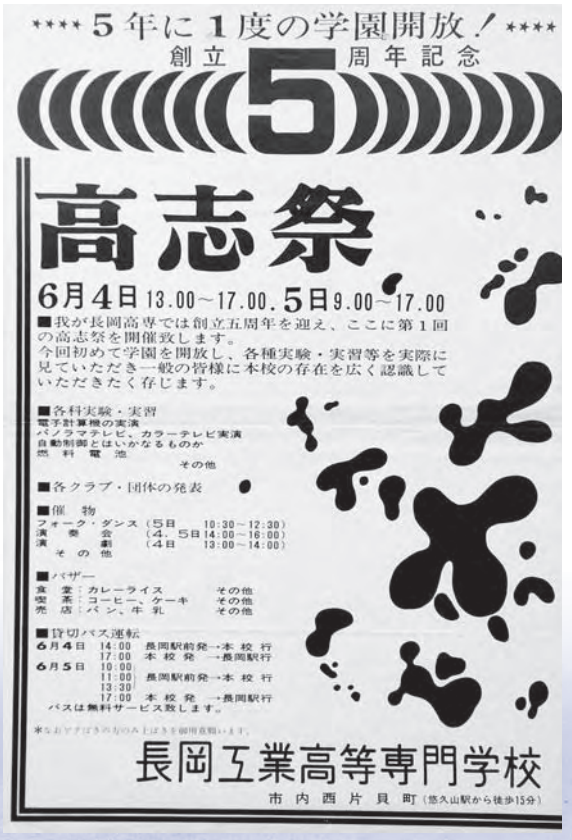
【日本の出来事】
1月　米原子力空母エンタープライズ佐世保寄航
【世界の出来事】
1月　アラブ石油輸出国機構（OAPEC）結成

世相
ビートルズ来日(1966)、「ウルトラマン」放送開始（1966）、「ボンカレー」発売（1968）、ミニスカートブーム、ボーリングブーム









土木工学科が増設され、四学科体制となる。
揺れる学園―学生準則をめぐって紛争が発生。





あの日 あの時

［昭和45年6月29日］

学生準則をめぐる学園紛争が起き、休校措置が取られました。



昭和四十三年四月一日、土木工学科が開設され、本校は四学科体制になりました。

この年、日本のGNPがアメリカに次ぐ世界第二位になりましたが、その一方で、公害問題や自然破壊が、さまざまな地域で大きな問題になりはじめていました。

また、全国の大学に「学園紛争」の波が押し寄せ、昭和四十三年には、全国の大学の八割が紛争状態にありました。アメリカではベトナム反戦運動を中心とするスチューデント・パワーが頂点をむかえ、フランスでは五月革命がおこりました。昭和四十四年一月には、東大安田講堂で学生と機動隊が激しくぶつかり合う光景が、テレビでも放映されました。

こうした国内外における学生運動の盛り上がりの中、昭和四十五年六月、本校においても、学生準則をめぐる学園紛争が発生しました。

すでにこれ以前から、制服・制帽問題や通信検閲問題などをめぐって学生の学校側に対する不信感が醸成されていましたが、昭和四十五年六月二十五日・二十六日に行われた「学生準則の弾力的運用案」に関する説明会において、この不信感がついに爆発する事態となりました。学校側が示した「弾力的運用案」は、学生の要求を大幅に汲み取ったものでしたが、事前の折衝が出来なかったことが結果的には災いし、学生たちの反発を招くことになりました。

騒然とした雰囲気の中、翌二十七日（土）午後から学校側と学生の討論会が開催されました。学生側は学生準則の白紙撤回を要求―。緊迫した状況の中、田健一校長は、当分の間、授業を停止して全学的な話し合いを継続すると提案し、学生側もこれを受け入れました。休講措置は、六月二十九日から七月十二日まで続きました。

昭和43年（1968）

4月1日	土木工学科が増設される
9月19日	参議院文教委員大松博文氏ら3名が来校
10月26日	学生会主催の第1回文化祭が開かれる（～27日）
11月1日	全校で八方台へ遠足
11月2日	山崎校長が勲二等瑞宝章を叙勲される

【日本の出来事】
4月　小笠原返還協定
5月　イタイイタイ病、公害病認定
9月　熊本水俣病・新潟水俣病、公害病認定
10月　川端康成がノーベル文学賞を受賞
11月　琉球政府主席に革新系の屋良朝苗が当選

【世界の出来事】
4月　米、キング牧師暗殺
7月　核拡散防止条約調印
8月　「プラハの春」終焉

昭和44年（1969）

3月25日	校舎3号館・寄宿舎4号館および寄宿舎厨房・食堂が竣工
4月1日	国立学校施設設置法規則の一部改正により事務部に学生課が置かれる
5月2日	夜間歩行の実施（長岡ー大湯）
8月20日	全国高専体育大会、バスケットボール優勝（～22日）
8月29日	第1回新入生合宿研修を八方台で実施（～31日）
11月7日	高志祭（～9日、テーマ「問題の原点を求めて! ー状況としての無関心の問題性を探るー」）

【日本の出来事】
1月　全共闘、東大安田講堂で攻防戦
5月　東名高速道路開通　新全国総合開発計画決定
6月　原子力船むつ進水

【世界の出来事】
1月　ニクソンが米大統領就任
3月　中ソ国境紛争
4月　フランス、ド・ゴール大統領辞任
7月　米の月着陸宇宙船「アポロ11号」が月面着陸に成功
9月　ホー・チ・ミン死去

昭和45年（1970）

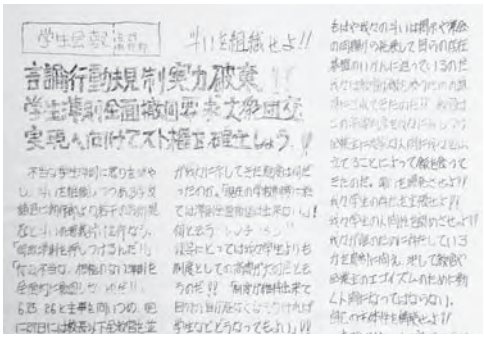
4月1日	第2代校長に田健一（文部省体育局学校保健課長）が就任
6月29日	学生準則をめぐる紛争が起き、休校の措置が取られる（～7月12日）
10月19日	合宿所を開所
11月27日	図書館・課外教育活動センターが竣工

【日本の出来事】
2月　国産初の人工衛星「おおすみ」打ち上げ
3月　大阪万博開幕　よど号ハイジャック事件
6月　日米新安保条約の自動延長声明
11月　三島由紀夫が割腹自殺

【世界の出来事】
3月　東西ドイツ首脳会談初開催
10月　チリ、アジェンデ社会主義政権成立

世相

3億円事件（1968）、「男はつらいよ」第1作公開（1969）、世界初のクオーツ時計発売（1969）、「あしたのジョー」放送開始（1970）、ケンタッキー・フライドチキン一号店開店（1970）


学生会報

斗いを組織せよ!!

言論行動規制実力破棄!!

学生準則全面撤回要求大衆団交実現へ向けてスト権を確立しよう!!

昭和45年6月29日　学生会報（部分）


バスケット全国優勝す

第四回全国高専体育大会が八月二十、二十一、二十二日にわたり行なわれた。宮城県営スポーツセンターに於いてバスケット出場校十校のうち、我校バスケット部が全国と優勝の栄冠を勝ちとった。

第一戦、二戦とも本校のスピードある攻めと守りが相手を圧し、決勝に於いては、前半を呉と引きわけ、後半、スピード、体力ともすぐれ、ついに宿願の勝利を握った。監督の橋本先生は「第二回大会では延長で高松に破れたが同地区の航空高専の優勝が選手の刺激となり、全国優勝を目ざしていた。地区大会での三連勝が選手の自信を支え、全国制覇への道を開いたのだと思われる。何んと言っても全種目にわたって初めて全国大会で関東地区に優勝をもたらすことが出来たことが全く喜しい。」と喜びを語っていた。

第一回戦
本校 70（36-34 / 22-21）43 新居浜

準決勝
本校 72（35-37 / 30-34）64 沼津

決勝
本校 60（29-31 / 11-31）42 呉

全国制覇の面々

昭和44年8月　全国高専体育大会でバスケットボール部が優勝
（長岡高専学生会新聞部発行『高志台』18号）

学園紛争の果てに―新学生準則の制定と施行。
新世代にこたえる理想的な学園の建設を目指して。


高志台学園だより 号外
昭和49年3月25日
新学生準則の制定・実施にあたって

あの日 あの時

［昭和49年3月1日］

昭和45年以来、高志台を揺るがしつづけた学生準則問題。この日、新しい学生準則が制定・施行されました。


高志台　昭和47年7月30日発行

準則会議

学校・学生側双方から試案

新準則作成へ一歩近づく

学園紛争による休校措置、連日行われた学生集会の様子は、新聞・テレビ・ラジオなどでも報道され、保護者の間にも動揺が広がりました。保護者からは関係学生の処分を求める強硬な意見が多く寄せられましたが、学校側は、一貫して信頼関係の回復を第一とし、そのための話し合いを継続する姿勢を堅持しました。

夏休みに入った後も、学生たちは集会を連日行っていましたが、時間の経過とともに一時の熱狂は冷めはじめ、次第に一般学生の学生会執行部ばなれが進行していきました。

一般学生の支持を失いはじめた執行部は、夏休み明けの昭和四十五年九月五日、総辞職を声明―。本校の学園紛争は、こうして終焉を迎えました。他高専においては、機動隊が導入されたり、処分者が相次いだり、深刻な状況が展開しましたが、本校においては、一人の処分者も出すことなく、このときを迎えました。

新学生準則に結びつく第一回準則会議が開催されたのは、紛争発生から一年半を経過した、昭和四十六年十一月のことでした。しかし、議論が進めば進むほど見解の相違点がはっきりとし、成案に至るまでには、なお多くの時間を要することとなりました。

新しい準則案が学生総会で報告されたのは、昭和四十九年一月下旬のことでした。ここで圧倒的多数の学生の支持を得た新学生準則は、教官会議においても全員一致で承認され、三月一日付けで制定・施行されました。

学生との対話路線を貫き通した田校長は、同日付の告示の中で次のように述べました。

「さらに全校あげて人間的信頼関係を深めるよう努力し、教職員、学生一体となって新世代にこたえる理想的な学園を建設していくことを心から期待する。」

昭和46年（1971）

４月８日	新図書館が開館
5月13日	図書館主催の第1回文化講演会に新井石龍氏（雲洞庵住職）を招く
9月18日	同窓会より10周年記念として課外教育活動センターに金子直裕氏作の乙女の像「悠」が寄贈される
10月22日	学生会執行部・同調者が441講義室を占拠、翌日自主撤去
11月18日	学校・学生合同の第1回準則会議が開かれる

【日本の出来事】
４月　大阪府で革新系の黒田了一が知事当選
６月　沖縄返還協定調印
７月　環境庁設置
12月　円の大幅切り上げ（1ドル=308円）
【世界の出来事】
３月　バングラディシュ独立宣言
８月　米、ドルと金の交換停止（ドル・ショック）
10月　国連総会本会議、中国招請・国府追放案可決

昭和47年（1972）

２月８日	雪不足のため、スキー大会中止
８月10日	野球場起工式
10月１日	校史編修委員会により『十年の回想』が発行される
10月31日	高志祭（～ 11月6日、テーマ「創見」）
12月12日	機械工学実験棟が竣工

【日本の出来事】
１月　日米繊維協定調印
２月　札幌冬季オリンピック開催　あさま山荘事件
５月　沖縄復帰
６月　田中角栄が『日本列島改造論』を発表
９月　田中角栄首相訪中、毛沢東主席と会談、日中共同声明（日中国交正常化）
【世界の出来事】
２月　ニクソン米大統領訪中
５月　米ソ、戦略兵器制限条約調印
６月　国連人間環境会議（ストックホルム）開催
12月　東西ドイツ基本条約調印

昭和48年（1973）

７月１日	野球場完成、野球場開きを挙行
7月22日	新潟県ハンドボール選手権大会で本校ハンドボール部が優勝
9月17日	成人年齢に達した学生に対して、校内所定の場所に限り喫煙を許可
12月27日	電子計算機センターが竣工、FACOM230-25導入

【日本の出来事】
２月　変動為替相場制へ移行、円の急騰
10月　江崎玲於奈がノーベル物理学賞を受賞
第一次石油危機
【世界の出来事】
１月　ベトナム和平協定調印
９月　東西ドイツ国連加盟
10月　第4次中東戦争勃発

昭和49年（1974）

３月１日	45年以来の懸案であった新学生準則が制定・施行される
3月30日	体育活動センターが竣工

【日本の出来事】
１月　田中首相、東南アジア歴訪

世相

マクドナルド１号店オープン（1971）、カップヌードル登場（1971）、NHK総合テレビ、全放送カラー化（1971）、「答えイッパツ」カシオミニ発売（1972）、パンダ、上野動物園で初公開（1972）、小松左京『日本沈没』（1973）





昭和48年12月27日　電子計算機センター竣工

昭和46年9月18日　乙女の像除幕式



新しい教育課程の実施―学生に「適切なゆとり」を。
長岡技術科学大学の開学、
全国高専中で最多の合格者。



新営工事中の長岡技術科学大学（昭和53年2月頃、『技学の実践と創造―長岡技術科学大学10年史』より）



長岡高専内に設置された長岡技術科学大学の仮事務所（『技学の実践と創造―長岡技術科学大学10年史』より）



あの日 あの時 ［昭和51年10月1日］

長岡技術科学大学が開学し、事務局が本校に設置されました。昭和53年度の学生受け入れ開始以降、本校から多くの学生が進学しています。

日本経済の成長とともに、大学への進学率が向上し、産業界からは、技術革新の進展に対応した新しい高等教育機関の創設が期待されるようになりました。高専関係者にとっても、高専卒業者の進学問題の打開策として、高専教育に接続する高等教育機関の創設への努力が加速しはじめました。

高専卒業者の進学問題は、すでに昭和三十九年ころから話題になっていました。打開策として、当初は専攻科構想が検討されていましたが、これが賛否両論で頓挫すると、ついで新構想大学（院）の創設が議論されたのです。

これらの議論に決着がついたのは、昭和五十一年のことでした。この年五月、「国立学校設置法の一部を改正する法律」が公布され、十月一日、長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学が開学し、ここに高専関係者の悲願が達せられました。

長岡技術科学大学は開学とともに、事務局を長岡高専内に設置し、学生受け入れの準備を開始しました。

高専卒業予定者が受験する第三学年入学試験は、推薦が昭和五十二年八月二十日、学力は九月二十五日と十月十日に実施されました。合格発表は十月十五日、試験会場でもあった本校で行われました。本校から長岡技術科学大学の合格者は、二八名（過年度卒業生九名を含む）にのぼり、全国の高専のうち最多を記録しました。

技術科学大学が開学した昭和五十一年には、高等専門学校設置基準の改訂も行われました。各校の「独自の創意と工夫」を認めるとともに、学生に「適切なゆとり」を与えるというのがその内容でした。本校における教育課程の改訂は、設置基準の改訂に先行するもので、昭和五十年四月、授業時数削減、工学共通基礎科目群の設定、選択科目の導入などを内容とする新しい教育課程が施行されました。

昭和49年（1974）

９月１日	工業高校卒業者等を対象とした編入学試験を実施（第1回）　52名（県外8）の応募、10名合格

【日本の出来事】
6月　国土庁発足
10月　佐藤栄作前首相がノーベル平和賞を受賞
【世界の出来事】
5月　インド、初めての地下核実験

昭和50年（1975）

3月15日	図書館竣工5周年記念誌の発行
４月１日	新教育課程の実施
4月15日	懇話室（学生相談室）の設置
8月	全国高専体育大会の柔道個人の部（軽量級）で居城政敏（工化5）が優勝
10月29日	高志祭（～ 11月4日、テーマ「何によって生きぬくかを問え」）

【日本の出来事】
3月　山陽新幹線の岡山―博多間開業
5月　エリザベス女王夫妻来日
7月　沖縄国際海洋博開催
【世界の出来事】
4月　蒋介石死去
4月　ベトナム戦争終結
11月　第1回先進国首脳会議開催（ランブイエ）

昭和51年（1976）

3月30日	実験廃液処理施設・水質分析実験室の竣工
７月３日	夜間歩行の実施（～ 4日、長岡―弥彦）
8月24日	第11回全国高専体育大会・昭和51年度全国高専硬式野球大会が本校を主管校として開催される（～26日） バスケットボール部が優勝、柔道個人（中量級）で富山豊（土木4）が優勝
9月29日	これまでの2年生修学旅行を研修旅行として実施（～10月2日）
10月１日	長岡技術科学大学が開学、事務局を本校に設置

【日本の出来事】
2月　ロッキード事件発覚
4月　狂乱物価終息宣言
7月　田中前首相逮捕
【世界の出来事】
7月　ベトナム社会主義共和国成立
9月　毛沢東死去

昭和52年（1977）

3月15日	第2体育館竣工
8月	全国高専体育大会でバスケットボール優勝、柔道個人（中量級）で富山豊（土木5）が優勝
10月15日	次年度開校となる技術科学大学に本校から長岡に28名（卒業生9名含む）、豊橋に2名が合格（全国高専中最多）
10月20日	図書館報「清風萬里」創刊（～ 3号）
10月29日	創立15周年記念の学園祭（～ 11月4日、テーマ「未来をみつめて」）
12月１日	長岡技術科学大学の事務局が、本校から上富岡の校地内に移転

【日本の出来事】
7月　領海12海里・漁業専管水域200海里実施
9月　日本赤軍、日航機ハイジャック事件
11月　第3次全国総合開発計画決定
12月　東京でアジア初の社会主義インターナショナル会議開催
【世界の出来事】
1月　カーターが米大統領就任
8月　中国、文革終了宣言
9月　ベトナム国連加盟

昭和53年（1978）

1月31日	新学生食堂（喫茶室を含む）開設
2月19日	入学試験で土木工学科にはじめての女子受験生
2月25日	田校長の別れの訓話

【世界の出来事】
3月　中国、新憲法公布（「四つの現代化」）

世相
高校進学率90%を超す（1974）、カルビーポテトチップス発売（1975）、家庭用カセットVTR登場（1975）、「およげたいやきくん」が大ヒット（1976）、王貞治756号ホームラン達成（1977）



第11回全国高等専門学校体育大会開会式（昭和51年8月24日、新潟市体育館）



昭和51年度全国高等専門学校硬式野球大会開会式（昭和51年8月24日、長岡高専野球場）

創立二十周年記念講演会の実施。
ノーベル化学賞受賞者・福井謙一氏と刀匠・天田昭次氏。



あの日 あの時

［昭和57年5月14日］

前年にノーベル化学賞を受賞した福井謙一氏の講演「科学と私と人生」が行われました。

創立二十周年を迎えた長岡高専。『長岡高専二十年史』の編集作業が進む一方、昭和五十七年には、創立二十周年の節目を飾る記念講演会が実施され、学生・教職員に多大な感銘を与えました。

日本人としてはじめてノーベル化学賞を受賞した福井謙一氏の講演会が実施されたのは、五月十四日のことでした。第一体育館を会場に、「科学と私と人生」と題する講演が行われましたが、ノーベル賞受賞者の講演は本校においては画期的なことでした。この日、福井氏は長岡市立劇場でも「科学技術と想像力」と題する講演を行っており、市民の間でも大きな話題となっていました。

一方、刀匠の天田昭次氏の講演会は、創立二十周年記念高志祭の開催中の十一月一日に行われました（演題「日本刀のできるまで」）。天田氏は、昭和五十二年、新潟県無形文化財に認定されていましたが、こののち平成九年、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されています。

ノーベル賞受賞者と新潟県無形文化財認定の刀匠―。対照的な人物を招いて講演会を実施した背景には、池田朔次校長のある思いがありました。池田校長は、昭和五十七年度の卒業式において、次のように述べています。

「極めて対照的な、いわばそれでその分野での名人であるお二人に本校としては特別な時に講演をお願いしたのは、お二人に代表されるものの接点に新しい時代の実践的技術者としての名工、名人が位置するのではないかと考えているからであった。毎年卒業生に新しい時代の名人になってほしいと望んできたが、諸君もまた時にはこれらの特別講演を思い出して名人になるよう努力してほしい。―」

昭和53年（1978）

4月1日　第3代校長に大戸敬二郎（東京工業大学名誉教授）が就任
5月16日　全校遠足で八方台へ
10月28日　高志祭（～11月5日、テーマ「高専って何だ」）

【日本の出来事】
4月　日本大学北極点遠征隊、日本初の北極点到達
5月　新東京国際空港（成田空港）開港
8月　日中平和友好条約調印
【世界の出来事】
7月　世界初の「試験管ベビー」誕生
9月　中東和平会談（キャンプ＝デービット合意）

昭和54年（1979）

3月15日　生活廃水処理施設棟竣工
12月13日　文部省高専視学委員による視察実施

【日本の出来事】
1月　国公立大学第1回共通一次試験実施
6月　元号法公布　エネルギー使用合理化法公布
東京サミット開催
【世界の出来事】
2月　イラン革命
12月　ソ連、アフガニスタンに軍事介入

昭和55年（1980）

3月31日　夜間照明設備・グランド管理室竣工
4月1日　寮務委員会設置、専門基礎教室（応物、応数、情報処理）の発足
4月29日　大戸校長逝去
5月25日　大戸校長校葬執行
5月　新潟大学工学部の長岡市から新潟市五十嵐地区への移転が完了する
6月11日　第4代校長に池田朔次（東京工業大学名誉教授）が就任
8月　全国高専体育大会でバスケットボール優勝、全国高専バトミントン選手権大会で団体優勝

【日本の出来事】
2月　海上自衛隊、環太平洋合同練習に参加
6月　初の衆参同日選挙
7月　モスクワオリンピック不参加
【世界の出来事】
5月　韓国、光州事件
8月　韓国、全斗煥大統領就任
9月　イラン・イラク戦争勃発
ポーランド、自主管理労組「連帯」誕生

昭和56年（1981）

2月7日　1年生特別教育活動で初めてスキー教室を実施（八海山麓スキー場）
2月20日　雪氷・低温技術教育研究施設竣工
8月　全国高専バドミントン選手権大会シングルスで涌井正樹（土木5）が優勝

【日本の出来事】
3月　第2次臨時行政調査会初会合
神戸ポートアイランド博覧会開幕
5月　鈴木首相・レーガン大統領、日米は「同盟関係」と声明
10月　福井謙一がノーベル化学賞を受賞
【世界の出来事】
1月　レーガンが米大統領就任
4月　世界初のスペースシャトル「コロンビア」打ち上げ・帰還成功
10月　初の南北サミット開催（カンクン）

昭和57年（1982）

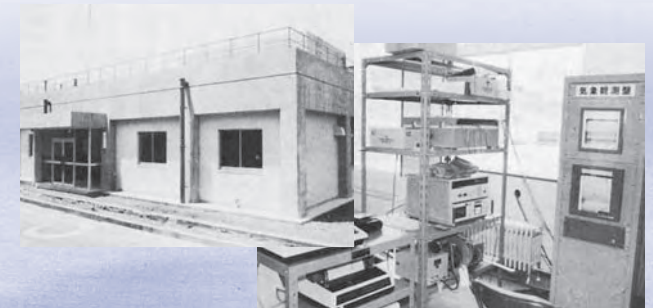
5月14日　ノーベル化学賞受賞者・福井謙一氏の講演が行われる（「科学と私と人生」）
5月29日　池田校長が高分子科学功績賞受賞
8月　全国高専バドミントン選手権大会シングルスで林浩一郎（土木5）が優勝
10月30日　創立20周年記念高志祭（～11月3日、テーマ「ときめこう輝く青春に！」）
11月1日　刀匠・天田昭次氏の講演が行われる（「日本刀のできるまで」）

【日本の出来事】
6月　東北新幹線開業
7月　教科書検定問題おこる
11月　上越新幹線開業
【世界の出来事】
4月　フォークランド紛争
5月　国連環境会議「ナイロビ宣言」



創立20周年を記念して行われた第6回高志祭のパンフレット（昭和57年10月30日～11月3日）

世相
インベーダーゲーム登場（1978）、「機動戦士ガンダム」放送開始（1979）、ソニー ウォークマン発売（1979）、任天堂 ゲームウォッチ発売（1980）、山口百恵引退（1980）、黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』（1981）、500円硬貨発行（1982）


昭和56年2月20日に竣工した雪氷低温技術教育研究棟と気象観測装置

国際化時代の幕開け―マレーシアから本校初の留学生。
創立二十五周年を記念して校旗を作成。





あの日 あの時

［昭和61年6月1日］

創立25周年の記念式典が盛大に執り行われました。



昭和六十一年六月一日午後十一時から長岡市厚生年金会館大ホールにおいて、創立二十五周年記念式典が行われました。

式典には、来賓のほか、後援会・同窓会の役員、在校生ら約一三〇〇名が集い、ともに二十五歳の誕生日を祝いました。高橋旦校長は式辞のなかで、「この二十五周年の記念式典を言葉どおりの記念に終わらせるということでなく、長岡高専の新しい出発点としてとらえ、より一層、我校の活性化をはかるよすがとしたい」と決意を述べました。また、席上、二十五周年を記念して作成された校旗が、安原功同窓会長（創立二十五周年記念事業委員長）から高橋校長に手渡されました。

式典に先立ち、同日午前九時三十分から、本校正面前庭において、校歌の刻まれた記念碑の除幕式も行われました。このほか、『長岡高専二十年史』を補う『創立二十五周年記念写真集』が刊行されました。

こうして本校が二十五年の節目を迎えていた頃、高専を取り巻く状況も大きく変化していました。

ハイテクノロジーという言葉に代表される科学技術の急速な発展への対応が緊急の課題となり、高専の分野拡大や専科大学への名称変更も話題となっていました。

また、進展する国際化への対応も重要課題として認識されるようになってきました。

前年の昭和六十年は、国連が「国際青年年」と定めた年でしたが、ちょうどこの年、マレーシアから三名の留学生が本校に編入しています。これは、本校として初めてとなる留学生で、まさに長岡高専の国際化時代の幕開けを感じさせる出来事でした。当時の『学園だより』も「我校における新しい歴史の一ページ」と記しています。

昭和58年（1983）

8月	全国高専体育大会の柔道個人（軽量級）で笠原克浩（土木4）が優勝
11月5日	学園祭を一新し、第1回未工祭として開催（～7日、テーマ「未知へのone step」）

【日本の出来事】
4月　東京ディズニーランド開園
10月　ロッキード事件で田中元首相に有罪判決
【世界の出来事】
9月　大韓航空機撃墜事件

昭和59年（1984）

2月17日	池田校長逝去
3月23日	池田校長校葬執行
10月1日	『長岡高専二十年史』が発行される

【日本の出来事】
8月　臨時教育審議会設置
11月　新札登場（福沢諭吉、新渡戸稲造、夏目漱石）
【世界の出来事】
10月　インド、インディラ・ガンディー首相暗殺
12月　香港返還に関する中英共同声明

昭和60年（1985）

4月1日	第5代校長に高橋旦（本校教務主事）が就任
4月	国際青年年にマレーシアから3名の留学生 福利施設「洗心館」の開設
9月～10月	鳥取国体に本校から2名が県代表選手として出場（秋山泰志〈機械1-2〉＝水泳、桜沢繁〈電気1〉＝陸上）
11月5日	留学生座談会が行われる（学園だより63号で特集）

【日本の出来事】
3月　科学万博－つくば'85が開幕
4月　NTT、JT発足
5月　男女雇用機会均等法成立
8月　日航ジャンボ機墜落
　中曽根首相、靖国神社公式参拝
9月　プラザ合意（円高進行の契機に）
【世界の出来事】
6月　中国、人民公社廃止
9月　南北朝鮮、離散家族相互訪問実現

昭和61年（1986）

2月20日	基幹整備工事（共同溝等）竣工
3月	インタアクトクラブの海外研修でシンガポール訪問
6月1日	創立25周年記念式典の挙行、『創立25周年記念写真集』の発行
8月23日	全国高専体育大会の陸上競技で総合優勝（～25日）
10月31日	創立25周年記念高志祭開催（～11月3日、テーマ「きっといつか…。」）

【日本の出来事】
5月　東京サミット開催
11月　三原山噴火　国鉄分割・民営化関連8法成立
12月　昭和62年度予算、防衛費がGNP1%枠を突破
【世界の出来事】
1月　スペースシャトル「チャレンジャー」打ち上げ直後に爆発
2月　フィリピン、コラソン・アキノ大統領就任
4月　チェルノブイリ原発事故

世相

「おしん」が高視聴率を記録（1983）、グリコ・森永事件（1984）、「ファミコン」「スーパー・マリオブラザーズ」で任天堂旋風（1985）、ハレー彗星フィーバー（1985）、レンズ付きカメラ「写ルンです」発売（1986）、超伝導フィーバー（1986）



昭和60年4月、マレーシアから本校ではじめてとなる3名の留学生が編入しました
左からアズマン（土木）、アズミ（機械）、カマルディン（電気）
11月5日に行われた留学生座談会での様子



昭和61年8月　全国高専体育大会（山口市）陸上競技で総合優勝



昭和60年4月に開設された鉄筋2階建ての福利施設・洗心館
1階に学生食堂・売店・喫茶・談話コーナー・保健室・懇話室、2階に学生会室と課外活動室が設けられました

昭和から平成へ―進展する情報化と国際化の中で。
電子制御工学科の設置、
黒龍江水利専科学校と学術交流協定。

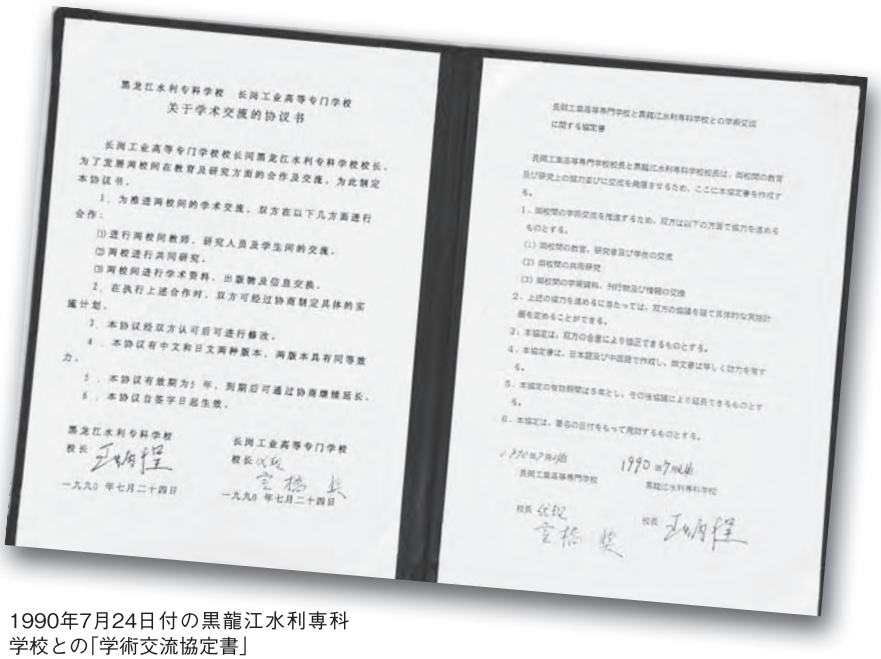


左から2人目に室橋奨教務主事、3人目に王炳程校長、4人目に土木工学科・佐藤和秀先生



あの日 あの時 ［平成2年7月24日］

長岡高専と中国の黒龍江水利専科学校との間に学術交流協定が調印されました。



1990年7月24日付の黒龍江水利専科学校との「学術交流協定書」

一九八九年十一月、ベルリンの壁崩壊のニュースが世界を駆け巡り、十二月には、地中海のマルタ島で米ソ首脳会談が開かれ、冷戦の終結宣言がなされました。世界情勢が大きく変化したこの年の一月、日本国内では、昭和天皇が死去し、元号が昭和から平成へと変わりました。

また、この時期は、コンピュータの普及がはじまり、ニューメディア時代、情報化社会、情報産業革命などの言葉が飛び交っていました。

本校においても、昭和六十二年十一月、事務用電子計算機が導入され、昭和六十三年二月には、本校図書館から学術情報センターの情報検索サービスが利用できるようになりました。また、同年四月には、電子計算機センターが情報処理センターに名称変更されるとともに、中央棟にマイコン演習室が設置されました。

機械工学科二学級が機械工学科一学級と電子制御工学科一学級に改組されたのは、こうした時代を背景にした、平成二年四月のことでした。

また、国際化も時代のキーワードになっていました。本校でも、昭和六十年に海外からの留学生の受け入れが始まり、徐々に国際化時代の到来が実感されるようになってきました。

こうした中、平成二年七月二十四日には、中国の黒龍江水利専科学校との間で学術交流に関する協定が結ばれました。岡本祥一校長が着任して間もなくであったため、中国で行われた調印式には、室橋奨教務主事が校長代理として出席・署名しました。両校の学術交流協定は、こののち平成七年と平成十三年に更新が行われ、姉妹校としての交流が続けられました。

また、学術協定の調印とあわせ、国際交流委員会が設置され、学内の体制整備も進められました。

昭和62年（1987）

- 8月　全国高専体育大会、陸上1600mリレーで優勝
- 9月8日　江崎玲於奈氏が長岡市立劇場で講演（長岡技大主催、長岡高専等の後援）
- 11月　事務用電子計算機の設置

【日本の出来事】
4月　JR各社が営業開始
10月　利根川進がノーベル医学・生理学賞を受賞
【世界の出来事】
6月　韓国、6月民主抗争
12月　米ソ中距離核戦力全廃条約調印

昭和63年（1988）

- 4月1日　電子計算機センターを情報処理センターに名称変更、マイコン演習室の誕生

【日本の出来事】
3月　青函トンネル開業　東京ドーム完成
4月　瀬戸大橋開通
【世界の出来事】
2月　韓国、盧泰愚大統領就任
4月　アフガニスタン和平交渉合意
8月　イラン・イラク戦争停戦

平成元年（1989）

- 4月　はじめての女子留学生2名（マレーシア、フィリピン）
- 11月3日　高志祭（～5日、テーマ「自身があるから、自信があります。」）

【日本の出来事】
1月　昭和天皇死去、官公庁で週休2日制を実施（第2・第4土曜を休日とする）
4月　消費税導入（税率3%）　9月　第1回日米構造協議開催
11月　新「連合」と全労連が誕生
【世界の出来事】
1月　G. H. W. ブッシュがアメリカ大統領就任
6月　中国、第2次天安門事件　11月　ベルリンの壁崩壊
12月　マルタ島で米ソ首脳会談（冷戦の終結）

平成2年（1990）

- 4月1日　第6代校長に岡本祥一（長岡技術科学大学教授）が就任
- 4月1日　機械工学科2学級を機械工学科1学級と電子制御工学科1学級に改組
- 7月24日　黒龍江水利専科学校との学術交流に関する協定が結ばれる
- 8月11日　全国高専体育大会、柔道（軽重量級）で小熊秀和（機械5）が優勝

【日本の出来事】
1月　初めての大学入試センター試験実施
11月　雲仙普賢岳噴火　即位の礼
【世界の出来事】
8月　イラクによるクウェート侵攻
9月　韓国、ソ連と国交樹立
10月　東西ドイツ統一

平成3年（1991）

- 4月　学校週5日制の試行　学生の服装規定が「学生服を原則とする」から「本校の学生としての体面を保つような服装でなければならない」に改められる
- 6月20日　姉妹校黒龍江水利専科学校より3名の教員が来校（～26日、本校に4日間滞在）
- 8月　全国高専体育大会でバレーボール優勝、陸上競技5000mで鳥部敏文（土木4）が優勝
- 8月30日　編入学試験（はじめて普通科高校から9名の合格者、工業高校は13名）
- 11月3日　全国高専ロボットコンテスト全国大会出場（関東信越大会優勝、ダイエット号）

【日本の出来事】
4月　東京都庁移転完了
海上自衛隊掃海部隊をペルシャ湾に派遣
牛肉とオレンジの輸入自由化
8月　世界陸上が東京で開幕
【世界の出来事】
1月　湾岸戦争はじまる
6月　南アフリカでアパルトヘイト終結宣言
クロアチア・スロヴェニアがユーゴからの独立を宣言
7月　ワルシャワ条約機構解体
10月　カンボジア和平最終合意
12月　ソ連邦消滅

世相

石原裕次郎死去(1987)、村上春樹『ノルウェーの森』（1988）、手塚治虫死去（1989）、横綱千代の富士に国民栄誉賞（1989）、ファジー・ブーム（1990）、本田宗一郎死去（1991）、「東京ラブストーリー」など純愛ドラマブーム（1991）



平成3年9月　高専ロボコンに向けた学内選考会の様子　写真右側のダイエット号は全国大会に進出



平成3年8月　第26回全国高専体育大会（高松市）でバレーボール部が優勝

学校新時代―週五日制の実施と推薦入試の導入。
工業化学科を物質工学科に改組。





あの日 あの時 ［平成4年4月1日］

平成3年度の試行期間を経て、平成4年度から週5日制が完全実施されました。

平成三年七月、高等専門学校設置基準が改訂され、その大綱化・弾力化が図られました。また、卒業者への「準学士」の称号の付与、工業・商船以外の学科の設置を可能とする分野拡大、そして専攻科制度の創設などが行われました。平成三年は、高専制度史上の大転換の年となりました。

平成四年度には、ほとんどの高専が週五日制に移行しました。本校も平成三年度の試行期間を経て、本格的に週五日制に移行しています。これは、小中高校が完全五日制に移行する十年前のことで、移行に伴い、カリキュラムの全面改定も行われました。

また、入試制度においても大きな変化がありました。本校における入学試験は、創立以来、学力選抜一本でしたが、平成六年度入試において、はじめて推薦入試が導入されることになりました。導入の背景には、十五歳人口の減少と四年制大学志向の高まりがありました。当時、本校への入学志願者が著しく減少するのではないかという懸念が広がっていたのです。

すでに県立高校においても推薦入試が導入されはじめており、全国の高専においても、平成四年度段階で、五四校中四六校が導入していました。推薦入試の導入は、優秀な学生確保のための有力な一方法として認識されるようになっていました。

平成六年度の入試は、推薦と学力を合わせた競争倍率が一・八倍になりました。前年の一・五倍を上回る結果となり、『学園だより』一〇〇号にも関係者の安堵の言葉が記されています。

週五日制や推薦入試の導入など、学校新時代の到来を告げる大きな変化が起こる中、平成六年四月、工業化学科が材料工学コースと生物応用コースからなる物質工学科に改組され、新しい歴史の一歩を踏み出しました。

平成4年（1992）

4月	週5日制の完全実施、カリキュラムの全面改定
4月	清花寮（女子学生寮）が開寮、初代女子寮長に三膳陽子（工化3）が就任
8月	全国高専体育大会、陸上800mで鳥部敏文（土木5）が優勝
10月31日	高志祭（～3日、テーマ「気楽にいこうや!」）

【日本の出来事】
6月　国連平和維持活動協力法成立
7月　山形新幹線「つばさ」開業
9月　学校5日制へ（第2土曜が休みに）
　　自衛隊カンボジア派遣
【世界の出来事】
2月　ヨーロッパ連合条約調印
3月　ボスニア・ヘルツェゴビナがユーゴからの独立を宣言
6月　地球サミット（リオデジャネイロ）開催
8月　中国と韓国が国交樹立

平成5年（1993）

3月31日	5号館（電子制御工学棟）竣工
6月21日	前校長高橋旦先生の叙勲（勲三等瑞宝章）を祝う会
7月22日	インターアクト年次大会が本校を会場に開催される（～23日）
8月	全国高専体育大会　陸上競技・三段跳で小出寿幸（機械5−1）が優勝

【日本の出来事】
2月　文部省が業者テストを禁止
8月　非自民連立内閣成立（55年体制崩壊）
12月　米の部分開放決定
【世界の出来事】
1月　クリントンが米大統領就任
　　EC統合市場発足
2月　韓国、金泳三大統領
8月　イスラエルとPLOの間でオスロ合意成立
11月　EU発足

平成6年（1994）

1月28日	本校ではじめて推薦入試（面接・作文）を実施
4月1日	工業化学科を材料工学コースと生物応用コースの2コースからなる物質工学科に改組
4月7日	自己点検・評価検討報告会が実施される
4月8日	高志台学園だより第100号を発行
9月10日	はじめて中学生を対象とした体験入学を実施（生徒174名、教員12名、保護者30名） ＊陸上、バレーボールなど8種目ではじめて高体連の大会に出場

【日本の出来事】
2月　H-2ロケット打ち上げ成功
6月　製造物責任法成立
7月　日本人女性初の宇宙飛行士向井千秋が宇宙へ
9月　関西国際空港開港
10月　大江健三郎がノーベル文学賞を受賞
【世界の出来事】
4月　ルワンダ虐殺はじまる
　　南アフリカ共和国でマンデラ大統領誕生
5月　英仏海峡トンネル開通
7月　北朝鮮、金日成死去

世相

尾崎豊死去（1992）、100歳の双子姉妹「きんさん・ぎんさん」が人気者に（1992）、クレヨンしんちゃんブーム（1993）、田中角栄死去（1993）、西垣通『マルチメディア』（岩波新書）がベストセラーに（1994）、「悪魔」ちゃん騒動（1994）



平成6年9月10日　中学生を対象とした体験入学の様子

平成4年3月31日　新年度の開始に先立って行われた清花寮開寮式の様子





平成4年度　第9回高志祭のパンフレット

土木工学科を環境都市工学科に改組。
第三十二回全国高専体育大会で長岡旋風。



ハンドボール部



柔道部


バレーボール部



あの日 あの時 ［平成9年8月］

全国高専体育大会で、ハンドボール部が初優勝（7日）、柔道部が団体で初優勝（9日）、バレーボール部が2年連続3度目の優勝（10日）を飾りました。

平成七年四月、土木工学科が環境都市工学科に改組されました。従来の土木工学に地球環境科学、水環境科学などの新しい分野を加えての再出発でした。

平成九年の第三二回全国高専体育大会では長岡旋風が吹き荒れました。ハンドボール部が初優勝、柔道部が団体で初優勝、バレーボール部が二年連続三度目の優勝―。三種目で「金メダル」という快挙は、他の学生にも希望と自信を与えるものでした。

ハンドボール部は、地区予選から登録選手総動員による戦いを経ての全国大会出場でした。全国大会の予選リーグでは、初戦で前年に完敗した八代高専を破って波に乗り、悲願の初優勝を果たしました。柔道部は、顧問の緒方和男先生が全国制覇を意識して五年計画で育ててきた選手たちでした。大学編入試験や主力選手の負傷を乗り越え、心と技で勝ち取った全国優勝でした。バレーボール部は、二連覇のプレッシャーの中での厳しい戦いとなりました。不安な気持ちで沈む選手に対して、顧問の久保田敬三先生は、「今まで指導してきた中で最強」という激励の言葉を送りました。この言葉に選手たちは堂々のプレーで応え、二連覇を成し遂げました。

五年生にとって最後となる高専大会は、就職活動や大学編入試験と重なるため、多くの苦労が伴いました。特にこのころまでに進学希望者が過半数に迫る状況となり、受験と大会の両立が大きな課題となっていました。

平成八年三月（平成七年度）の卒業生が二〇三名。このうち進学者が九六名で、就職者が九五名。はじめて進学者数が就職者数を上回った瞬間でした。この年以降も進学者数は増加を続け、多い年では一五〇名を超える状況となりました。

平成7年（1995）

4月1日	土木工学科を環境都市工学科に改組
6月13日	黒龍江水利高等専科学校との協定更新調印式（岡本校長、中澤章教務主事が訪中）
8月	全国高専体育大会、水泳100mバタフライで野嶋宗（物質2）が優勝
9月20日	黒龍江水利高等専科学校の王校長と謝主任を本校に招聘（～ 27日）
11月3日	高志祭開催（～ 5日）
11月30日	寮の改修工事が竣工（平成3年度～）
12月7日	寮改修工事の竣工式・祝賀会
12月	将来計画委員会設置、地域交流室設置

【日本の出来事】
1月　阪神・淡路大震災
3月　地下鉄サリン事件、警察庁長官狙撃事件
4月　東京（青島幸男）・大阪（横山ノック）でタレント知事誕生
　　学校で第2・第4土曜日が休業日
12月　高速増殖炉「もんじゅ」でナトリウム漏れ事故
【世界の出来事】
1月　世界貿易機関（WTO）発足
8月　米・ベトナムの国交樹立
11月　ラビン・イスラエル首相暗殺
12月　ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の包括和平合意

平成8年（1996）

3月	校内LANの整備拡充、5号館増築（物質工学科棟）竣工
4月1日	第7代校長に小川正二（長岡技術科学大学教授）が就任
7月17日	本校ホームページの暫定版が公開される
8月	全国高専体育大会でバレーボール優勝、水泳400mリレー優勝、水泳100mバタフライで野嶋宗（物質3）が優勝

【日本の出来事】
2月　北海道・豊浜トンネルで崩落事故
　　薬害エイズ訴訟で国が原告に謝罪
8月　新潟県巻町で初の原発住民投票
【世界の出来事】
3月　台湾初の総統直接選挙で李登輝が当選
9月　国連総会、包括的核実験禁止条約採択
12月　ペルー日本大使公邸人質事件

平成9年（1997）

8月	全国高専体育大会　バレーボール2年連続3度目の優勝、ハンドボール初優勝、柔道団体初優勝、柔道個人（86kg超級）で鰐淵良則（機械2）が優勝、水泳100mバタフライで野嶋宗（物質4）が優勝
10月1日	本校ではじめて専任の外国人教官が一般教育科に着任（Gregory Stuart Hadley）
10月11日	第8回全国高専プログラミングコンテスト本選がハイブ長岡で行われる
12月15日	姉妹校黒龍江水利高等専科学校から宋世田副校長ほか3名が来校（平成9年度、同校から2名の研究員を受け入れ）

【日本の出来事】
1月　ロシア船籍「ナホトカ号」が島根県沖で沈没
4月　容器包装リサイクル法本格施行
5月　アイヌ文化振興法成立
6月　臓器移植法成立
12月　地球温暖化防止京都会議
　　介護保険法成立
【世界の出来事】
2月　中国、鄧小平死去
5月　英、ブレア労働党内閣成立
7月　香港の中国返還
10月　北朝鮮で金正日が党総書記に就任

平成10年（1998）

1月	本校ホームページの本格運用はじまる

【日本の出来事】
2月　郵便番号7桁制実施　長野オリンピック開催
3月　NPO法成立
【世界の出来事】
2月　韓国、金大中が大統領に就任

世相

米大リーグで野茂英雄が活躍（1995）、ウインドウズ95（1995）、プリクラ、デジカメが爆発的人気（1996）、渥美清死去（1996）、たまごっちブーム（1997）、世界初のハイブリッド乗用車プリウス発売（1997）

平成9年12月　黒龍江水利高等専科学校から
宋世田副校長ほか3名が来校







平成7年12月7日　寮改修工事の竣工式・祝賀会

●長岡工業高等専門学校

五十年の歩み

ミレニアムの年に歴史を刻む―。
専攻科の発足とロボコン大賞の受賞。



専攻科第一期生





高専ロボコン2000第13回全国大会でロボコン大賞を受賞（「長岡猿軍団」チーム）



あの日 あの時

［平成12年4月10日］

長岡高専の専攻科が設置され、この日、第一期生が入学しました。

西暦二〇〇〇年問題―。コンピュータが西暦二〇〇〇年に誤作動を起こす可能性が指摘され、世界中で警戒態勢がとられました。電子化された社会のさまざまな面で大混乱が起こるのではないかという不安が世の中を覆いましたが、その不安は杞憂に終わりました。

こうした不安の一方で、世界中でミレニアムブームが発生し、各地で祝賀イベントが行われました。日本でも「ミレニアム結婚」や「ミレニアムベビー」などの言葉が流行しました。

この年四月、長年の悲願であった専攻科がスタートし、第一期生を迎え入れることになりました。平成三年の学校教育法の改正により高専に専攻科を設置することが可能となり、平成四年度以降平成十一年度までに国立高専二五校で専攻科が設置されていました。平成十二年には、長岡のほか石川・舞鶴・高知・熊本電波・鹿児島で専攻科が設置されました。第一期生は、電子機械システム工学専攻が一六名、物質工学専攻が七名、環境都市工学専攻が六名、合計二九名でした。

専攻科がスタートしたこの年の十二月には、もう一つの悲願が達成されることとなりました。十二月三日、東京・両国国技館で開催された「アイディア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2000」において、本校の「長岡猿軍団」チームが、独創的なアイディアと優れた技術力を認められ、もっとも栄誉のある「ロボコン大賞」を受賞したのです。

不安と祝賀ムードが混在した西暦二〇〇〇年―。本校の歴史にも大きな一歩が刻まれました。

また、前年の平成十一年には、長岡高専技術協力会が発足したほか、地域開放事業などの取り組みが始まりました。地域連携、地域貢献がさらに強調される時代が始まったのです。

平成10年（1998）

9月30日　長岡高専技術協力会の発起人会開催（長岡グランドホテル）
10月22日　長岡市が各町内会に呼びかけた「秋のクリーン作戦」に学生会が参加
10月26日　黒龍江水利高等専科学校から5名来校
10月31日　高志祭開催（～ 11月2日、テーマ「想像・創造」）
11月22日　ロボコン全国大会で「越号NAGAOKA」が準優勝

【日本の出来事】
5月　スポーツ振興投票法成立
6月　中央省庁等改革基本法成立
8月　北朝鮮が発射したミサイル「テポドン」が太平洋に落下

【世界の出来事】
5月　インド・パキスタン核実験
インドネシアのスハルト大統領辞任

平成11年（1999）

1月27日　長岡工業高等専門学校技術協力会発足
2月21日　学力選抜試験の方法を一部変更して実施（本校第一志望、他校第一志望の区分を導入）
7月10日　はじめての学校見学会
7月24日　大学等地域開放特別事業の実施、親と子のペットボトルロケット実験（9月25日にも）
8月　全国高専体育大会、柔道男子90キロ超級で鰐渕良則（機械4）が優勝、水泳200mバタフライで山田暢一（機械1）が優勝
9月6日　小川校長らが黒龍江水利高等専科学校を訪問（交流協定の更新について協議、～ 12日）
10月9日　大学等地域開放特別事業の実施、親と子の紙飛行機実験
10月　柔道部の鰐渕良則（機械4）が第54回国体（くまもと未来国体）に新潟県代表として出場
11月27日　サイエンススクール「高専夢工房」の実施（～ 28日）

【日本の出来事】
2月　初の脳死臓器移植手術
5月　情報公開法成立
日米新ガイドライン関連法成立
7月　ダイオキシン対策法成立
8月　国旗・国家法成立　通信傍受法成立
9月　東海村核燃料施設で臨界事故

【世界の出来事】
1月　EU、単一通貨ユーロ導入
3月　NATO軍がコソボ問題でユーゴ空爆
対人地雷全面禁止条約発効
10月　世界の人口60億人を突破
12月　マカオの中国返還　パナマ運河の返還

平成12年（2000）

4月10日　入学式が行われ、専攻科第1期生が入学する
4月10日　学生食堂がカフェテリア方式になる
11月5日　全国高専第11回プログラミングコンテスト課題部門で優秀賞（2位相当）を受賞（本校初の快挙、鈴木崇之〈制御4〉）
12月3日　高専ロボコン2000第13回全国大会でロボコン大賞を受賞（「長岡猿軍団」チーム　佐藤塁〈制御4〉・吉田正尭〈電気3〉・渡辺美奈子〈制御2〉）

【日本の出来事】
5月　犯罪被害者保護法成立　児童虐待防止法成立　ストーカー規制法成立
7月　九州沖縄サミット開催
10月　白川英樹がノーベル化学賞を受賞
11月　改正少年法成立

【世界の出来事】
5月　プーチンがロシア大統領就任
陳水扁が台湾総統就任
6月　南北朝鮮首脳会談

世相

和歌山毒入りカレー事件（1998）、iモード誕生（1999）、「だんご3兄弟」がヒット（1999）、盛田昭夫死去（1999）、二足歩行ロボット「ASIMO」発表（2000）、イチローがシアトル・マリナーズと契約（2000）



平成11年1月27日　長岡高専技術協力会設立総会（長岡グランドホテル）


平成11年　親と子のペットボトルロケット実験


平成11年11月28日
サイエンススクール「高専夢工房」

二十一世紀を迎えて―。
進む教育環境の整備と入試制度改革。


平成14年4月16日


平成14年2月28日


平成14年5月30日

平成14年11月11日



あの日 あの時 ［平成14年11月11日］

6号館（地域共同テクノセンターと講義棟）が完成し、この日、竣工記念式典が挙行されました。

創立四十周年を迎えた平成十四年―。この年の十一月十一日、地域共同テクノセンター及び講義棟（六号館）の竣工記念式典が挙行されました。

六号館は、専攻科の設置による学生定員の増加と既存校舎の狭隘解消を一つの目的として、さらに、産学連携による協同研究等を積極的に推進することをもう一つの目的として設置されたものでした。六号館の竣工は、教育・研究、産学連携のランドマークの誕生といえるものでした。

記念式典に先立ち、八月二日には、創立四十周年記念と六号館の竣工記念を兼ねて、前東大総長・蓮實重彦氏による記念特別講演が行われました。

また、夏休み明けの九月からは、六号館での授業もはじまりました。六号館では、同じ階に同じ学年のホームルームが置かれ、他学科の学生との交流が図れるようになりました。物質工学科四年の板屋大吾は、冷暖房やエレベーターなど設備の充実ぶりに驚きを述べるとともに、高専生にとって一番プラスになったこととして、「横のつながりが薄かった高専生を物理的にくっつけた」点を指摘しました（『学園だより』一三六号）。

こうした環境整備とあわせ、ソフト面での改革も進められていました。入試制度では、平成十四年度入試から、受験会場の複数化（この年は、村上・新潟・長岡・上越の四会場）が行われ、平成十六年度入試からは、特別推薦制度が導入されました。また、平成十六年三月には、長岡技術科学大学との単位互換協定も締結されました。

二十一世紀を迎え、さらに充実感を増した本校でしたが、一方では、高専全体にかかわる変革の波が迫っていました。「法人化」に向けた有識者による検討が始まったのは、六号館の竣工を間近にした、平成十四年七月のことでした。

平成13年（2001）

５月７日	図書館の新システム導入オープンセレモニー
５月８日	黒龍江水利高等専科学校の徐校長以下3名来校、「学術交流に関する協定書」を締結
6月	JABEE対策小委員会の設置
11月2日	高志祭（～ 4日、テーマ「表現」）

【日本の出来事】
1月　1府12省庁スタート
6月　大阪・池田小事件
10月　野依良治がノーベル化学賞を受賞
　　テロ対策特別措置法成立
【世界の出来事】
1月　G. W. ブッシュが米大統領就任
3月　イスラム原理主義勢力タリバンがバーミヤン大仏破壊
9月　米同時多発テロ
10月　アフガニスタン紛争はじまる
12月　中国、WTO加盟

平成14年（2002）

1月25日	推薦入試を県内4会場で実施（本校、村上、新潟、上越）、あわせて推薦出願資格を変更
2月24日	学力入試を県内4会場で実施（本校、村上、新潟、上越）
3月19日	第1回専攻科修了式（修了生21名）
８月２日	創立40周年記念特別講演会を開催（前東大総長・蓮實重彦氏、演題「人はいかにして変化の主体となるか」）
8月	全国高専体育大会、陸上競技男子5000mで櫻井貴文（機械4）が優勝
9月	はじめての夏休み読書感想文コンクール実施
10月19日	移動公開講座を実施（村上）　10月26日（上越）
11月11日	地域共同テクノセンター及び講義棟（6号館）の竣工記念式典を挙行

【日本の出来事】
4月　学校完全5日制実施
5月　日本経団連発足
8月　住民基本台帳ネットワークシステム始動
5月～6月　サッカー W杯日韓共同開催
9月　平壌で日朝首脳会談
10月　小柴昌俊がノーベル物理学賞
　　田中耕一がノーベル化学賞を受賞
【世界の出来事】
1月　ユーロの使用開始
5月　東ティモール共和国独立
7月　アフリカ連合成立
8月～9月　環境・開発サミット（ヨハネスブルク）開催
11月　中国、胡錦濤が総書記就任

平成15年（2003）

3月20日	4号館改修工事完了
４月１日	第8代校長に高田孝次（長岡技術科学大学教授）が就任
8月21日	はじめて外部評価委員会が開かれる
12月4日	はじめてTOEIC-IPテストが実施される（4・5年、専攻科生対象）

【日本の出来事】
4月　日本郵政公社スタート
5月　個人情報保護法成立
6月　有事関連3法成立
7月　イラク人道支援復興特別措置法成立
【世界の出来事】
3月　イラク戦争開戦　SARSの流行拡大
4月　ヒトゲノム解読完了

平成16年（2004）

1月22日	推薦入試で特別推薦制度を導入して実施、あわせて絶対評価の導入に対応して推薦出願資格を変更
2月24日	帰国子女特別選抜をはじめて実施
３月５日	長岡技術科学大学と単位互換協定を締結

【日本の出来事】
1月　鳥インフルエンザ被害の拡大
　　イラクへ自衛隊派遣
3月　九州新幹線部分開業

世相
iPod発売（2001）、「写メール」が大ヒット（2001）、中島みゆきが紅白で「地上の星」を歌う（2002）、韓国ドラマ「冬のソナタ」が人気（2003）、養老孟司『バカの壁』（2003）


平成13年5月7日　図書館の新システム導入オープンセレモニー　テープカットに臨む小川校長（中央）



平成16年3月5日　長岡技術科学大学との単位互換協定調印式で長岡技術科学大学の小島陽学長（中央左）と握手する高田校長（中央右）

独法化元年、電気工学科は電気電子システム工学科に。
中越地震の発生により、本校も大きな被害を受ける。

あの日 あの時

［平成16年10月23日］

午後5時56分に発生した中越地震により、本校は甚大な被害を受けました。



3号館と食堂の間に出来た地割れ



地震発生時刻で止まった大時計

平成十六年四月一日、国立高専が独立行政法人として再スタートしました。本校を含む五五の国立高専は「独立行政法人国立高等専門学校機構」のもとに統合され、新しい歴史の一歩を踏み出したのです。本校においては、同時に電気工学科の名称変更が行われ、電気電子システム工学科となりました。

独法化元年のこの年は、長岡技術科学大学との単位互換が実施されたほか、中国の黒龍江工程学院との学術交流協定が調印されるなど、さまざまな面で新しいスタートが切られました。

本校が創立以来最大の惨事に見舞われたのは、こうした緊張感に満ちた状況の中でのことでした。

平成十六年十月二十三日午後五時五十六分ころ、中越地方でマグニチュード六・八の大地震が発生―。その後も余震が多発。本校も施設・設備に大きな損害を受け、学生・教職員にも多くの被災者が出て、臨時休校やむなき状況となりました。

これ以降、文部科学省や機構本部の強力な支援を受けながら、授業再開に向けて教職員一丸の対応が行われました。長岡技術科学大学や新潟大学をはじめ、関係諸機関からも有形無形の支援が寄せられました。その結果、本科五年及び専攻科生については、十二月六日から長岡技術科学大学で授業が再開され、一～四年生の授業は、年明け一月四日から本校で再開されました。三月には無事に卒業・修了生を送り出し、四月には希望に満ちた新入生を迎えることが出来ましたが、地震直後の状況からすれば、まさに奇跡のようでした。

その後も震災復旧工事が進み、学校全体が「工事現場」のような状況となりましたが、学生・教職員ともども、高志台で再び学べることの喜びをかみしめる日々が続きました。

平成16年（2004）

４月１日	独立行政法人国立高等専門学校機構長岡工業高等専門学校として再スタート
４月１日	電気工学科を電気電子システム工学科に名称変更
４月１日	長岡技術科学大学との単位互換の実施
４月１日	専攻科生も学生会組織に加入
５月７日	雪つばきの会（留学生支援の会）発足
９月１日	寮務補助員制度を導入
９月22日	黒龍江工程学院との交流協定に調印
10月23日	新潟県中越地震により甚大な被害をうける
12月６日	5年・専攻科生の授業を長岡技術科学大学で再開

【日本の出来事】
６月　有事関連7法成立
７月　7・13水害発生
10月　新潟県中越地震発生
【世界の出来事】
５月　EU、加盟25カ国に拡大
11月　PLOのアラファト議長死去
12月　スマトラ島沖地震・インド洋津波

平成17年（2005）

１月４日	本校校舎で1 ～ 4年の授業を再開
９月25日	黒龍江工程学院を専攻科生が訪問（～ 30日）
10月16日	JABEE実地審査（～ 18日）

【日本の出来事】
２月　中部国際空港開港
３月～9月　日本国際博覧会（愛知）開催
10月　郵政民営化関連法成立
【世界の出来事】
４月　ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世死去
７月　ロンドンで同時多発テロ
12月　第1回東アジア首脳会議開催

平成18年（2006）

３月６日	「数検」グランプリ金賞を受賞

【日本の出来事】
１月　堀江貴文ライブドア社長逮捕
３月　世界野球WBCで初代王者に

世相　『電車男』が大ブレーク（2004）、プロ野球に楽天とソフトバンクが新規参入（2004）、「小泉劇場」が流行語に（2005）、青色発光ダイオード訴訟和解（2005）、日本の人口初の自然減少へ（2005）



平成16年9月22日　黒龍江工程学院との交流協定に調印
高田校長（右）と黒龍江工程学院の魏兆勝院長（左）


平成17年7月7日　被害の大きかった3号館の
取り壊し工事の様子


平成17年9月26日　黒龍江工程学院を本校専攻科生が
訪問　懇談会での交流の様子


平成18年2月10日　復旧工事中の構内の様子
スペース確保のため各所にプレハブが設置されました

五年間の準備期間を経て、JABEE認定を受ける。
中越地震を乗り越えて―震災復興記念式典の挙行。







あの日 あの時

［平成18年11月2日］

中越地震発生から2年。ご支援をいただいた方々への感謝の意を込め、復興記念式典が行われました。

平成十八年五月、本校四・五年及び専攻科に至る四年間の教育プログラム（生産システム・環境工学プログラム）が、日本技術者教育認定機構（JABEE）の設定基準を満たすものと認められました。

JABEE認定に向けた準備は、平成十三年四月以降、将来計画委員会のもとに設置されたJABEE対応小委員会で精力的に進められていましたが、中越地震をはさんだ五年間に及ぶ苦心の末の認定となりました。

また、JABEE認定を受けた平成十八年度は、中越地震からの完全復興を遂げた年としても忘れ難いものとなりました。完全復興により、本校は全国の国立高専の中で最も新しい施設・設備が整った学校となり、恵まれた環境での再スタートとなりました。地震発生から丸二年を経た十一月二日には、再生された学園環境のもと、震災復興記念式典が挙行され、式典後には、洗心館前広場で記念植樹（欅）が行われました。

完全復興の翌年度（平成十九年度）は、制度改革の年となりました。一つ目が、セメスター制の導入―。夏休み前に前期を終了させる学年歴がスタートし、この年の夏季休業は、八月十一日から九月三十日までとされました。そして、もう一つが、四・五年生での学修単位の導入―。これは、平成十七年九月の高等専門学校設置基準の改正によって、従来の一単位三〇時間履修単位に加え、四五時間学修単位が制度化されたことを受けての措置でした。

平成二十年度も話題は豊富でした。一月には、国際理解教育の拠点として「地球ラボ」が誕生。三月には、大学評価・学位授与機構による認証評価。部活動での活躍も多く、硬式野球部や柔道部などの話題が新聞紙面をにぎわせました。

平成18年（2006）

5月8日　JABEE認定される
5月17日　中越地震復旧記念制作の実施（タイルアートを洗心館学生食堂に設置）
9月24日　黒龍江工程学院訪問団が来校（～ 29日）
10月21日　震災復興記念サッカークリニックの実施（アルビレックス新潟の選手ら）
11月2日　復旧工事完了、震災復興記念式典挙行
11月3日　震災復興記念学校見学会（～ 5日）
高志祭（～ 5日、テーマ「UTOPIA」）
11月19日　震災復興記念講演会（フリーライター山根一眞氏）

【日本の出来事】
12月　新教育基本法成立
【世界の出来事】
10月　北朝鮮が初めて地下核実験実施
12月　イラクのフセイン元大統領死刑執行

平成19年（2007）

1月11日　高専機構による3学年対象の学習到達度試験がはじめて実施される（数学）
4月1日　夏休み前に前期を終了させる学年歴がスタート
4月1日　学修単位が導入される
8月29日　文部科学省の学生支援GPに採択される（長岡高専地球ラボによるキャンパスの国際化ー小さな高専で広い視野を持った国際人に成長するための学生支援プログラムー）
10月4日　長岡市と市内3大学1高専との包括連携協定が締結される
10月11日　2回目の外部評価委員会が開かれる

【日本の出来事】
1月　防衛省発足
4月　文部科学省が43年ぶりに全国学力テストを実施
5月　国民投票法成立
7月　新潟県中越沖地震
参院選で自民惨敗（「ねじれ国会」）
10月　郵便事業の民営化はじまる
【世界の出来事】
1月　ルーマニア・ブルガリア、EU加盟（加盟27カ国となる）

平成20年（2008）

1月24日　地球ラボがオープン
3月27日　独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価において、評価基準を満たしていると認められる
5月8日　硬式野球部が第118回北信越地区高等学校野球大会で35年ぶりに県大会に出場
6月28日　柔道の全日本学生優勝大会に全国の高専ではじめて本校女子が出場する（山﨑孝子〈環境5〉、若月智秋〈電気4〉）
8月19日　佐藤國雄教授が山岳部活動を指導中に、白馬岳大雪渓付近で遭難
10月12日　高専ロボコン2008関東甲信越地区大会が長岡市市民体育館で開催される（本校、全国大会出場）

【日本の出来事】
7月　北海道洞爺湖サミット開催
10月　益川敏英、小林誠、南部陽一郎がノーベル物理学賞を受賞　下村脩がノーベル化学賞を受賞
【世界の出来事】
2月　李明博が韓国大統領就任
5月　中国四川省で大地震
8月　北京オリンピック開催
9月　世界金融危機がおこる
11月　第1回G20首脳会合の開催

平成21年（2009）

2月10日　ホテルニューオータニ長岡で地球ラボシンポジウムが開催される

【日本の出来事】
1月　国連安保理の非常任理事国となる（10回目）
【世界の出来事】
1月　オバマが米大統領就任

世相
映画「ALWAYS三丁目の夕日」がヒット（2005 ～ 2006）、鉄道博物館オープン（2007）、NOVA経営破綻（2007）、東京秋葉原で無差別殺傷事件（2008）、黒人演歌歌手ジェロの「海雪」がヒット（2008）、「タスポ」カード導入（2008）



平成20年1月24日
地球ラボがオープン
中央が高田校長
左から2人目が
羽賀友信特命教授
（長岡市国際交流
センター長）


認定証
長岡工業高等専門学校
専攻科
プログラム名：生産システム・環境工学
工学（融合複合・新領域）関連分野
2006年5月8日
日本技術者教育認定機構
会長　大橋　秀雄

平成18年5月8日付のJABEE認定証

●長岡工業高等専門学校

五十年の歩み

創立五十周年を迎えて――。
大いなる未来に向かってはばたく長岡高専。



平成23年度入学式



あの日 あの時 ［平成23年4月5日］

50回目の入学式が挙行され、希望に満ちた新入生が高志台の仲間に加わりました。

昭和三十七年四月一日、新潟大学工学部（長岡市学校町）の講堂で第一回入学式が行われてから、半世紀―。平成二十三年四月五日、節目となる五十回目の入学式が本校体育館で挙行されました。

長岡における工業系高等教育機関の伝統を受け継いで誕生した長岡高専は、幾多の変遷を経て、創立五十周年を迎えました。長岡における最初の工業系高等教育機関である長岡高等工業学校（新潟大学工学部の前身）が誕生したのが大正十二（一九二三）年のことで、それから数えれば、九十年に近い年月が経過しようとしています。積み重ねられた歴史を糧として、さらなる飛躍を誓い合う時がやってきたといえるでしょう。

本校五十回目の入学式にあたり、第九代校長に就任した渡邉和忠校長は、新入生に対して次のように呼びかけました。

「…本校は一九六一年に高等専門学校制度の創設に先行して設けられた国立工業短期大学を前身としており、全国の高等専門学校に先駆けて設置された最も歴史のある名門校の一つであります。皆さんもこのことを誇りに思い、日夜研鑽を積み、次の世代の『ものづくり』のリーダーになろうではありませんか。…」

高専制度創設から五十年を迎えたことから、平成二十四年度には、国立高等専門学校機構・公立高等専門学校協会・日本私立高等専門学校協会と各高専が連携し、様々な記念事業が行われます。

記念事業の統一キャッチフレーズは、「進化する高専」。高専は今、さらなる飛躍に向け、新しいスタートラインに立ったのです。

平成21年（2009）

10月22日	運動会を体育祭と改称して実施
10月27日	中国・南海東軟信息技術職業学院と学術交流協定調印
11月1日	高志祭（～3日、テーマ「Hyper　Nova」）
11月11日	新型インフルエンザによる臨時休校（～16日）

【日本の出来事】
5月　裁判員制度施行
9月　民主・社民・国民新党の連立内閣成立
11月　行政刷新会議が事業仕分けを実施（第1回）
【世界の出来事】
6月　WHO、新型インフルエンザの世界的大流行を宣言　マイケル・ジャクソン死去
7月　中国、ウイグル騒乱

平成22年（2010）

3月25日	技術協力会10周年記念講演会・祝賀会が行われる
5月30日	「佐藤國雄先生を偲ぶ会」を開催（アトリウム長岡）
8月2日	陸上競技部の須藤大翔（機械3）がインターハイに出場（110mハードル）
8月26日	長岡技術科学大学を会場として全国高専教育フォーラムが開催される（～28日）
10月18日	3回目の外部評価委員会が開かれる
11月18日	ハノイコミュニティーカレッジと学術交流覚書調印
12月6日	JABEE継続の実地審査が行われる（～7日）

【日本の出来事】
4月　高校授業料無償化実施
6月　小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
10月　鈴木章、根岸英一がノーベル化学賞を受賞
羽田空港で国際定期便が32年ぶり復活
12月　東北新幹線全通
【世界の出来事】
4月　アイスランドで火山噴火、各地で空港閉鎖
5月　上海万博開幕
8月　チリの鉱山で落盤事故が発生、作業員33名が地下に閉じ込められる（10月全員救出）
11月　ミャンマーでアウンサンスーチーの自宅軟禁解除

平成23年（2011）

2月14日	学生死傷事件が発生
3月7日	高専機構特別教育研究（国際性の向上）プロジェクト「アジア高等教育機関との交流および地域連携による人材育成」（平成21・22年度）の最終報告会が開催される
4月1日	第9代校長に渡邉和忠（長岡技術科学大学副学長）が就任
4月4日	創立50周年を記念して制定された本校のロゴマークが公表される（吉田智広〈機械2〉作品）

【日本の出来事】
3月　東北地方太平洋沖地震発生
4月　新学習指導要領の完全実施で「小学5・6年生の英語活動」が必修化
7月　地上デジタルテレビ放送完全移行
新潟・福島豪雨
【世界の出来事】
1月　チュニジアでジャスミン革命
3月　国連安保理が、リビアに対する軍事介入を容認する決議を採択

世相

村上春樹『1Q84』がベストセラーに（2009）、40年ぶりの皆既日食（2009）、森繁久彌死去（2009）、平城遷都1300年記念祭（2010）、iPad発売（2010）、記録的な猛暑（2010）、ウィキリークスが問題化（2010）



平成21年6月18日
北信越高等学校陸上競技大会で、須藤大翔（機械3、右から3人目）が男子110メートルハードルで準優勝。沖縄総体2010への出場権を獲得



平成22年8月19日～8月25日
学生海外研修（マレーシア）

平成22年9月18日～25日
ものづくり学生海外派遣研修（ベトナム）　日本精機（株）ハノイ工場見学







2



1

エピローグ1

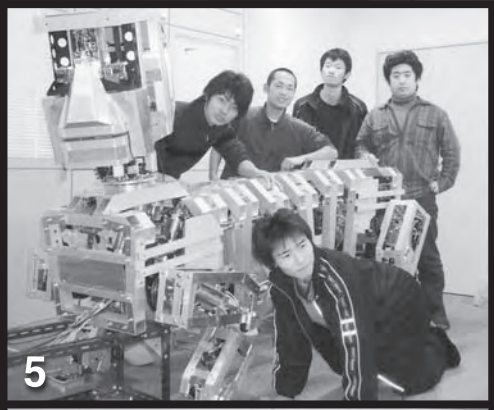
思い出の写真でつづる
学校生活のいま・むかし



6



3



5



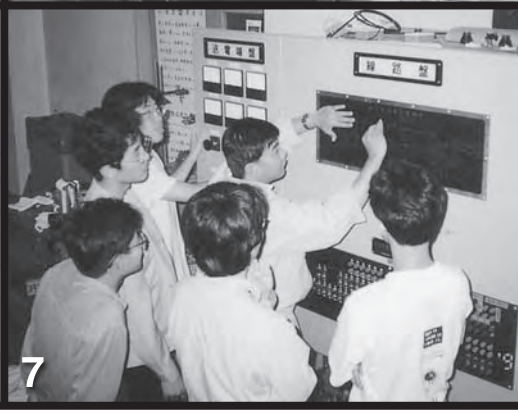
4



9



8



7

1. 入学式（平成22年度）　2. 入学式（昭和52年度）　3. 授業風景（昭和45年度卒業アルバムより）　4. 授業風景（平成20年度）
5. 卒業研究（電子制御工学科　平成17年度）　6. 測量実習（環境都市工学科　平成22年度）　7. 電気実験（電気工学科　平成5年度）
8. 卒業研究（工業化学科　昭和44年度）　9. 卒業研究（機械工学科　平成3年度）


11


10



13


12


16


15


14


19


18

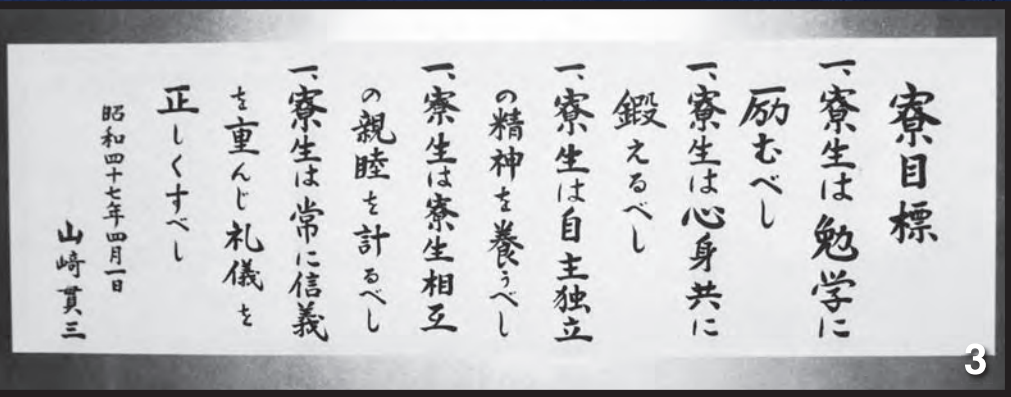

17

10. 高志祭（平成21年度）　11. 体育祭（平成22年度）　12. 高志祭（平成元年度）　13. 卒業式（平成21年度）14. 学生食堂（平成22年度）
15. クラブ活動（硬式野球部　平成20年度）　16. 運動会（昭和45年度）　17. 学生食堂（昭和56年度卒業アルバムより）
18. クラブ活動（ブラスバンドクラブ　昭和44年度）　19. 卒業式（昭和54年度）



エピローグ2

思い出の写真でつづる
寮生活のいま・むかし


寮目標
一、寮生は勉学に励むべし
一、寮生は心身共に鍛えるべし
一、寮生は自主独立の精神を養うべし
一、寮生は寮生相互の親睦を計るべし
一、寮生は常に信義を重んじ礼儀を正しくすべし
昭和四十七年四月一日
山崎貢三









1. 学生寮正面　2. 対面式（平成20年度）　3. 寮目標　4. 入寮式（平成22年度）
5. 寮標（昭和41年6月2日完工）　6. 宿直の植木邦昌先生（工業化学科）を囲んで

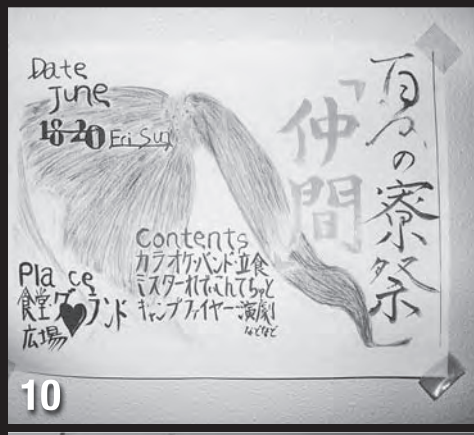

8


9


7



13



10


11



14


12

7. 高志寮居室（昭和63年度学校要覧より）　8. 談話室（平成22年度学校案内より）　9. 高志寮居室（平成22年度学校案内より）　10. 夏の寮祭（平成22年度）
11. 夏の寮祭（平成22年度）　12. 餅つき（昭和49年度）　13. 夏の寮祭（昭和58年度）　14. 夏の寮祭（昭和58年度）